

# 桜縁

oh.en

おうえん

日本大学校友会  
会報誌

2009.7

No. 15

特集

漱石、井上靖、作之助、盧花…

文豪が愛した「湯の町」あるき

—名湯の宿で校友と語らう





## 6

### 特集

漱石、井上靖、作之助、蘆花…

# 文豪が愛した「湯の町」あるき

## 名湯の宿で校友と語らう

- 道後温泉 大和屋別荘・奥村時雨さん
- 湯ヶ島温泉 白壁荘・宇田治良さん
- 伊香保温泉 古久家旅館・森田 繁さん
- 別府温泉 ホテル三泉閣・森澤 章さん



## 28

### 先輩にインタビュー

# 新聞記者の世界

- 朝日新聞 紺野信幸さん  
インタビュアー…経済学部 柴田友佳里さん
- 毎日新聞 高橋一隆さん
- 産経新聞 吉村剛史さん
- 読売新聞 岩佐 譲さん



## 2 NU Scoop

- 運動部紹介…… 弓道部
- サークル紹介…… ダブルダッチ・ストリート・パフォーマンス
- キャンパスの人気者…… 野牛弘太さん(生産工学部)
- 留学生紹介…… ジーナ・アルバクリさん(医学研究科博士課程)

## 16 桜縁グラフ

- サプライズは息子お手製の金メダル  
WBC日本代表・横浜ベイスターズ 村田修一選手

## 17 わが町の先生

- 地元の人と「顔の見える医療」を  
秋田県横手市 石田歯科医院 石田知也さん

## 18 フロントランナー

- 超一流を宿命づけられた人間国宝  
能楽師・人間国宝 亀井忠雄さん

## 21 ふるさと礼讃

- 美しく、勇気を与えてくれる浜  
和歌山県・煙樹ヶ浜 阪本智子さん

## 22 首長に聞く

- 市民が誇れ、元気に暮らせる町づくり  
熊本県荒尾市長 前畑淳治さん

## 25 お店紹介

- 山形県山形市 丸八やたら漬本舗

## 26 お宿紹介

- 鳥根県隠岐の島町 隠岐プラザホテル

## 27 趣味悠々

- 音楽と絵画の融合が生み出す絵  
埼玉県さいたま市 国藤定保さん

## 34 支部・部会紹介

- 医学部同窓会  
山口県支部

## 35 トップの肖像

- 女性の感性が生んだ江戸と癒しの空間  
(株)東新アクア社長 平井要子さん

## 38 日大人 百花繚乱

- NPO法人ぎょうだ足袋蔵ネットワーク代表理事 朽木 宏さん

## 40 夢に向かって!

- 争いのない日中関係の架け橋を目指して  
中国語通訳 細川裕子さん

## 41 お達者通信

- 平和な世に生きる幸せを感じて  
東京都町田市 林 廣さん(97歳)

## 42 イベント情報

## 46 校友会ニュース

## 47 校友会館進捗状況、書籍紹介

## 48 お知らせ・掲示板

## 「桜縁」の由来

「桜」は日本大学の校章にもあしらわれた花です。この桜(日本大学)を媒介として大学、校友、在学生のそれぞれが新しい「縁」を結び、互いに助け合い、協力し合いながら発展していくためのコミュニケーション誌という思いを込めて「桜縁」と名付けました。また、校友の方には母校の活動と後輩を、在学生の方には仲間同士で「おうえん」(応援)しましょうという心を託しました。





代表 齊藤 泰之さん  
文理学部社会学科3年



坂本 承さん  
文理学部体育学科4年

第17回  
世界大会  
優勝者

### 2本の縄とチームワークが織り成す 妙技で世界を制す

軽快に動く2本の縄と華麗なフットワークによるパフォーマンスの数々——技に取り組む顔は真剣そのもの。でも、練習の雰囲気は明るい。

先輩たちの演技に魅了されて集まった仲間たち。創立からわずか5年だが、毎年のように世界チャンピオンに輝くハイレベルなサークルだ。校内や公園を利用して、1組4、5人でチームを組み、週3回の練習に精を出す。練習には、プロになったOBたちも顔を出し、指導してくれる。

「ダブルダッチの魅力は、大学から始めても練習次第で世界に挑戦できること。1人ではできない競技ですから、チームワークが大切です」と話すのは、代表の齊藤さん。「カッコいい」「面白そう」という軽い気持ちだけでは、世界の壁を超えることはできないが、みんなで楽しみながら、テクニックやパフォーマンスを上達させていきたいという。「要是みんな「カッコつけたがり」なんですよ」。しかし、月平均2～3回、依頼を受けて小中学校でダブルダッチを指導するなど、その普及にも努力を惜しまない。

こんな彼らが、今年もニューヨークで一番高いところに日の丸を揚げてくれるはずだ！



昨年12月、ニューヨークで行われた世界大会で優勝し、日の丸を広げるDSPのチームCHROM (クロム)

#### サークルの歩み

平成16年創設。翌17年12月には、ニューヨークのアポロシアターで毎年行われているホリデークラシックのアドバンスト・フュージョン部門で優勝、世界一となる。以後も18年、20年と優勝。国内では、17年から19年まで全国大会3連覇。現部員数19人。新1年生を迎え、活動も充実。今年度も世界大会優勝を目指す。

### ダブルダッチ・ストリート・パフォーマンス (DSP)



### 保健体育審議会 弓道部



落合 榮司監督  
昭和42年経済学部経済学科卒業



弓道の最高峰を決する全日本学生弓道王座決定戦優勝の楯

### 礼節を第一とする 心身鍛錬の競技

きびきびとした所作、一糸乱れぬ射形（フォーム）で、28m先の1尺2寸（直径36cm）の的に正確かつ果断に矢を射放つ。文理学部に隣接する弓道場は、常に凜とした空気に包まれている。「弓道は、技術や力で勝負する競技ではありません。逃げることのない不動の“的”に對峙しながらも、邪念をなくし心の平静を保つ“強靱な精神”が必要なのです」と語るのは、落合榮司監督。

練習は、月曜日と試合のある日曜を除く毎日。それは自身の内面と向き合う時間であり、修練の場。男子部員は4年間寮生活を送る。学業もおろそかにはしない。まさに「文武両道」である。

落合監督は、弓道を通じて、礼儀作法を身に付け、万物に対する尊敬の念をもつ心を養ってほしいと願う。社会に出て、周囲に気配りし、真っすぐで“すきのない”行動となって表れるからだ。

これこそが、弓道の魅力だという。

今後の部の目標は「連続優勝を重ね、名実ともに日本一に君臨する」こと。そのために、学生たちは、「心技体」のバランスのとれた豊かな人間性を培うべく、日々、たゆまぬ研さんを積んでいる。





“再生医療”を祖国の再建に役立てたい

今、医学界の最先端に行く「再生医療」。失われた体の組織や臓器を細胞レベルから新たに作り出す夢の医療。ジーナさんが日本大学で学ぶきっかけは、造血幹細胞移植の世界的権威・麦島秀雄



子どものころ、夏祭りで盆踊りを楽しむジーナさん。このような生活経験があるジーナさんにとって、日本は決して遠い国ではなかった



ジーナ・アルバクリさん

大学院医学研究科 博士課程 4年



教授との出会いがあったから。現在、彼女は、あらゆる細胞に変化する可能性をもった幹細胞が多量に含まれている「臍帯血」の研究に取り組んでいる。

イラクでは、メディカルスクールで6年学んだ後、病院に2年間勤務したジーナさんだったが、戦争が勃発したことで、一家で日本に移り住むことに。子どものころ、父親が在日イラク大使館に駐在していたため、東京で5年間過ごした経験があり、「とても美しい国で、みんな優しく親切でした」と、そのときの日本の印象を語る。加えて、日本は欧米に比べ、文化や風俗、宗教の違いにおおらかだと言う。「イラクを去るとき、家族にとって日本で暮らすことが一番幸せだと思いました。でも、東京はペースが早いですね」。

最近、学会発表のために札幌を訪れた。「ちょうど『雪まつり』の時期で、初めて見る雪に感動しました。とっても寒かったけど(笑)」。

ジーナさんに将来の希望を聞いた。「イラクでは、がんや白血病に苦しむ子どもたちが増えています。彼らを助けたいんです。自分の知識と技術で祖国に貢献していきたい。イラクが平和で安全な国になったら、日大のリサーチセンターのような研究施設を造るのが目標です」。



野牛 弘太さん

生産工学部土木工学科1年

(やぎゆう・こうた)

自分を「認めてもらえた」世界大会  
フロアボールがくれた感動

「フロアボール」……野球のボールとほぼ同じ大きさのプラスチック製のボールを、スティックを使って相手のゴールにたたき込む、アイスホッケーに似た室内競技。野牛さんは、そのフロアボールの19歳以下の日本代表。今年5月、フィンランドで行われたU-19世界選手権に、正キーパーとして参加した。

「世界のレベルは圧倒的でした。試合をしても、まるで大人と子ども。一番最後にやったカナダとの試合では、試合中に足をけがしちゃって、足を引きずりながらプレーしていました。でも、そ

んな僕を見て、観客は僕がボールを止めるたびに大きな拍手を送ってくれました。試合後にはカナダチームの選手たちが『感動したよ』と、チーム全員のサインが入ったユニホームをくれたんです。なんだか涙が止まりませんでした」。

17歳のとき、児童館ボランティアをしていて出会ったフロアボール。熱中するうちに、自分の将来も少しずつ見えてきた。

「自分が存在した証明のために、何か形に残るものをつくる仕事をしたい。そんな将来のために、JABEEコースのある土木工学科を選びました」。

もちろんフロアボールで、もっともっと自分を磨きたい。この競技は、2016年のオリンピックで公開競技になることを目指しています。東京でのオリンピックで、代表のゴールを守ることができたら最高ですね」。





特集

漱石、井上靖、作之助、蘆花：

# 文豪が愛した「湯の町」あるき

— 名湯の宿で校友と語らう

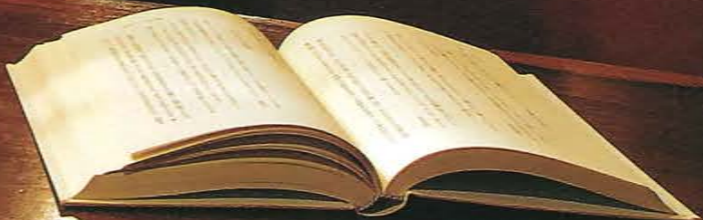
コーヒーの香りにページがゆれる  
ゆらめきに浮かぶ物語の数々

古くから文人墨客が愛した名湯

小説の名場面を演出した湯の町に  
旅心を誘われる

さあ、一冊の本を携えて

名作の世界へ旅立とう



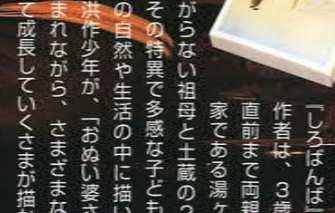
「不如帰」（徳富蘇峰）  
主人公・浪子のモデルは  
大山巖の娘・信子。継母との  
確執、陰険な姑との生活、結  
核発病と強制的な離婚。女性の苦悶を二  
身に背負い、「もう一度と女にならな  
れたくない」と言いつつ、この世を去る  
浪子。「家制度」のしからみがもたらした  
悲劇を表現し、数多くの演劇、映画の原  
作となった。



「坊っちゃん」（夏目漱石）  
漱石自身の教師体験を元に、  
江戸っ子気質の正義漢「坊っ  
ちゃん」先生が、活気あふれ  
る明治時代の松山を舞台に、やんちゃな  
生徒や一癖ある登場人物を巻き込み、仕  
事に恋に大活躍する姿を生々生きと描い  
た作品。「我が輩は猫である」で注目を浴  
びた漱石が、39歳のときに発表。漱石作  
品の中では最も多くの人に愛読された。



「しろはんば」（井上靖）  
作者は、3歳から小学校卒業  
直前まで両親と離れ、母の美  
家である湯ヶ島で、血のつな  
がらない祖母と土蔵の2階で暮らした。  
その特異で多感な子ども時代を、湯ヶ島  
の自然や生活の中に描いた自伝的小説。  
洪作少年が、「おぬい婆さん」の愛情に包  
まれながら、さまざまなる出来事を経験し  
て成長していくさまが描かれている。



「天婦羅屋」（徳田作之助）  
昭和初期の大阪・法善寺横丁  
を舞台に、大店のドラ息子と  
しつかり者の芸者夫婦の強い  
絆を、ベースたつぷりに描いた作品。  
ドラマや映画になっても話題となり、  
さらに人気を呼んだ。60年ぶりに発見さ  
れた続編は、舞台を別府に移し、主人公  
夫婦のその後を描いた。本編と併せ「夫  
婦善哉完全版」として出版されている。



「水戸黄門」  
「天婦羅屋」



# 道後温泉



## 夏目漱石『坊っちゃん』

# 漱石が愛した日本最古の湯・道後 失われた時代の色香がかすかに漂う街

生活の場に同居していた『坊っちゃん』の世界

「坊っちゃん」「マドンナ」の

文字が、目に飛び込んでくる。ここは松山。緑に映える松山城が美しい。城の周りをゆったりと巡る路面電車に乗って、松山の街を道後に向かった。

道後温泉本館は、小説『坊っちゃん』で、主人公が湯殿で思い切り泳ぎ回り、「泳ぐべからず」の貼り札を出された場所である。坊っちゃんが楽しんだ道後の湯は、

『日本書紀』にも登場する。日本最古と伝えられ、人々に愛されてきた湯だ。

目指す大和屋別荘は、道後の中でも、山の手にある高級旅館である。玄関で迎えてくれた女将・奥村時雨さんは、道後の歴史や文化に詳しい。さっそく「坊っちゃん」と昔の道後の話を聞くことができた。

「子どものころは、小説にありました。『布団にバツタを入りましたよ。』」



宝蔵寺にある子規の句碑  
宝蔵寺は、665年開山と伝わる古刹で、時宗の開祖一遍上人誕生の地

れて大騒動なんて(笑)。あの人が「山嵐」のモデルだとか、誰々のおば

さんが「マドンナ」だよ、なんて話も聞きました。それに、漱石や子規が、番傘で城のお堀の鯉を捕まえて食べた、という話もありました。

各旅館に内湯ができたのは、戦後のことだという。それまでは温泉旅館といっても湯船はなし。「お客さまは本館に行って湯に浸かりました。地元の人たちも、銭湯代わりに本館を使っていましたしね。昔は馬が浸かる湯船もあった。洗濯も本館の湯を使っていたから、近所の人が集ま



江戸時代、温泉街では旅館ごとに「湯女」と呼ばれる女性が控えていた。明治に入って街の東側の斜面が開かれ、「松ヶ枝遊郭」として一郭をなし、坂道の左右に二十数軒の妓楼が軒を連ねるようになった。各旅館には、宴席に呼べる芸妓の写真が置かれていた

っておしゃべりする場でもあったんです。四国は、お遍路の地でもある。道後の湯は、苦しい遍路旅のひとつの癒しとなった。

## 若き二人の「遅き春」の名残

女将に別れを告げ、本館の湯に向かう。「坊っちゃん」の気分で一風呂浴びたいものだ。夕方近くの本館。湯治客が次々と玄関へと吸い込まれていく。玄関に入ろうとしたとき、先ほどの大和屋に飾ってあった古い見番の

写真と女将の言葉を思い出した。「漱石と子規の足取りをたどりたいなら、宝蔵寺に行ってみるといいですよ。」湯は後にして、本館脇の坂道を上り、左に折れる坂道のでつべんにある宝蔵寺へと歩を進める。

寺の参道だと思っていた坂道の両側には、点在するいくつもの壊れかけの妓楼と、戦後の歓楽街を思わせるスナックの看板。なるほど、ここが江戸時代から続いた遊郭街・松ヶ枝町か……。

戦後は「ネオン坂」と呼ばれた



松山城  
松山市の中心部、勝山(城山)山頂に本丸を構える城。天守は、日本に現存する12カ所の一つ



大和屋別荘  
昭和12年創業。心安らぐ和のしつらえの中、季節の恵みを生かした懐石料理と日本最古の温泉を内湯で楽しめる純和風旅館。  
〒790-0836 愛媛県松山市道後鷺谷町2-27  
TEL 089-931-7771 FAX 089-931-7775  
http://www.yamatoyabesso.com/



運動のために、湯の中を泳ぐのはなかなか愉快だ。おれは人の居ないのを見済しては十五畳の湯壺を泳ぎ巡って喜んでいて。ところがある日三階から威勢よく下りて今日も泳げるかなとさくろ口を覗いてみると、大きな札へ黒々と湯の中で泳ぐべからずと書いて貼りつけてある。湯の中で泳ぐものは、あまりあるまいから、この貼り札はおれのために特別に新調したのかも知れない。おれはそれから泳ぐのは断念した。



湯ヶ島温泉



白壁荘 代表取締役社長 宇田治良さん  
昭和54年商学部経営学科卒業  
(うだ・はるよし) 昭和31年静岡県生まれ。本学卒業後、1年間熱海で修業し、白壁荘に戻る。そのころ、井上靖と対面。以後、先代とともに親交を深める。

今も変わらぬ温泉場の世界  
天城には雨が多い。天城の山懐に抱かれた湯ヶ島も雨の多い土地柄だという。しかし、今日は幸いにも、抜けるような青空で緑がまぶしい。

湯ヶ島は、伊豆半島を南北に縦断する下田街道(国道414号)によって、谷上の集落と溪流へ続く集落に大きく二分される。

訪ねる白壁荘は、谷下に続く「湯道」沿いにある。宿の入口で、ご主人の宇田治良さんが出迎えてくれた。さっそく「しろばんば」の舞台を案内していただきたいとお願いする。「しろばんば」と発音していると、「地元では、「しろばんば」とアクセントが前にきます。湯ヶ島も「ゆがしま」。井上先生もそう発音されていました」。

宇田さんは井上家の遠縁に当たり、白壁荘は井上氏の定宿だった。川端康成が「伊豆の踊子」を執筆した「湯本館」とも縁結んだ。「湯道」は、谷上の街道筋の住民が、溪流沿いの共同湯に近道で来るようにと「湯本館」のご主人が手作りで作ったもので、幼いきの井上先生もここを通って共同湯に行きました。

小説にも「西平の湯」が、しばしば登場している。物語の最後、洪作が湯ヶ島を去る前日、仲間に誘われて共同湯に行くくだりがある。別れを惜しむ子どもたちの心情に、胸の熱くなったのを思い出す。その共同湯は、「河鹿の湯」として、今も地域の人々に愛されている。

ふと「しろばんば」「ゆがしま」と言う自分に気付く。「洪ちゃ」や「おぬい婆さん」の世界に、少しだけ近づいたような気がした。

# 井上靖 『しろばんば』

## 日なたのようにふつくらとした子どもたちの世界に浸る 『しろばんば』の里・湯ヶ島



しろばんば  
小説の冒頭に登場する。一般には「雪虫」と呼ばれている虫



子どもたちの懐かしい風景が「ここ」にある

しろばんばを追う洪作少年と、洪作を見守るおぬい婆さんの像(湯ヶ島小学校内)  
洪作は、戸籍上の祖母「ぬい」になつき、複雑な人間関係のなかで寄り添って生活した。洪作に注がれる「ぬい」の無償に近い愛情は切ない

宇田さんに案内していただき、谷上の集落に向かった。街道から数十メートル入ったところに、「洪ちゃ」や「おぬい婆さん」が住んだ井上邸跡があり、「しろばんば」の文学碑が建立されている。その場所に立った瞬間、小説の世界が天然色でよみがえった。振り返れば、井上家の本家「上の家」の土蔵。あこがれていた叔母さき子が結核で亡くなるのが、この土蔵の2階。洪作が、おぬい婆さんの葬列を見送ったのも、同じ2階の窓だ。道を隔てれば、一級下の「幸夫」の家、少し歩けば、子どもたちの遊び場になっていた帝室



旧井上邸  
道の駅「天城」に建てられた昭和の森文学館敷地内に移築保存されている。文学館には、「洪作」少年が「おぬい婆さん」と暮らした土蔵の2階が再現されている



井上家本家「上の家」の土蔵  
「叔母のさき子が結核で亡くなるのが、この2階。風邪で寝込んでいた洪作がおぬい婆さんの葬列を見送ったのもこの窓です」と宇田さん



井上靖資料室  
湯ヶ島小学校の一室に設けられている

林野局の建物、天城神社と、次々にわんぱく坊主たちの日常世界が現れる。歩けば、風呂敷に包んでしまえそうな広さ。でも、子どもにとっては、宇宙のように広がっただろう。ここはまさに「しろばんば」の小宇宙。

最後に、街道沿いの天城温泉会館近くの駐車場に案内していただいた。今は普通の駐車場だが、かつては湯ヶ島の人々を、大仁や下田へと運んだ馬車やバスが止まっていた。小説には、子どもたちが、

「すのこ橋」まで乗り物を追いかける姿が描かれている。

天城の山の端に夕暮れが近づいてきた。お世話になった宇田さんと駐車場でお別れする。

車が走り出し、程なく通り過ぎる「すのこ橋」から、ふと振り返った。木々や建物の間から、着物姿のわんぱく坊主たちが、わらわらと踊り出て、車を追いかけてくるような気がした。



昭和初期の湯ヶ島  
この写真には、井上家本家の「上の家」や洪作とおぬい婆さんが暮らした土蔵なども写っている



白壁荘「あまんじゃくの部屋」  
井上靖が好んで宿泊していた部屋。「しろばんば」に登場する昔の仲間と酒を飲み交わすことが楽しかったという



白壁荘  
昭和29年創業。コンセプトは民芸と民話の里。多くの文化人に愛されてきた。事前予約で、ご主人から地元でも過去のものになりつつある「しろばんば」の話を伺うことができる。  
〒410-3206 静岡県伊豆市天城湯ヶ島1594  
TEL 0558-85-0110 FAX 0558-85-0726  
http://www.shirakabeso.jp/



# 伊香保温泉



古久家旅館 代表取締役社長  
森田 繁さん  
昭和47年商学部経営学科卒業  
(もりた・しげる) 昭和25年群馬県生まれ。古久家の4代目主人。近年、独自のマイスター制度を構築、旅館の経営者や従業員の能力を結集して全客室の改修を行うなど、常に新しい視点で旅館経営に携わっている。

伊香保のシンボル・石段街  
伊香保神社へ続く352段の階段。両側には旅館や土産物屋、射的場などがあり、温泉地ならではの風情が味わえる



春の日脚の西に傾きて、遠くは日光、あしお、越後境の山々、近くは、小野子、子持、赤城の峰々、入り目を浴びて花やかに夕ばえすれば、ついで下の櫻離れて啞々と飛び行く鳥の声までも金色に聞こゆる時、雲二片蓬々然と赤城の背より浮かび出でたり。

## 蘆花の伊香保への思いが生んだ名作

伊香保温泉は、上毛三山の一つ「榛名山」のふもと、標高700メートルに位置する。その伊香保の町を左右に見ながら、榛名山に向かう。つづら折りの急な道を車

で走ること10分。目の前の空が急に開けたので、車を止めた。澄んだ空気の中に、美しい裾野を見せる赤城山、上毛の山々、日光連山の雄大なパノラマが広がった。遠く谷川岳も望め、眼下には、濃い緑の間に伊香保の町が見える。

この雄大な景観を、夫は榛名に登って眺め、妻は旅館の窓から、その夕景を楽しんだ。明治の大ベストセラー『不如帰』の冒頭である。美しき主人公の名は浪子、心優しき夫は陸軍少将・川島武勇。作者・徳富蘆花は、2人の蜜月に

伊香保の地を選んだ。蘆花夫妻が、初めて伊香保を訪れたのは明治31年5月。『不如帰』の連載が始まったのが、その年の秋。伊香保の地に惚れ込んだ蘆花が、悲劇の主人公が過ごした唯一幸せなひとときの舞台を、この地

## 徳富蘆花『不如帰』

# 哀れで切ない「女」の物語を彩った上州の山々、伊香保の旅情

に求めたことは想像に難くない。

蘆花は、その後も夫人同伴で伊香保を訪れ、臨終の地に選んだほど、伊香保を愛した。

蘆花夫妻の人生は、決して安穩ではなかった。神経を病み、創作に苦悩する夫は、そのいらだちを妻にぶつけた。妻・愛子は一心に耐え抜き、夫を支えたという。蘆花の心を癒したのが、伊香保の湯であり、景色であった。伊香保は、

愛子にも、優しい夫と過ごす至福の時を与えたのである。

伊香保は、茶色い色をした「湯の花まんじゅう(温泉まんじゅう)」発祥の地。多くの店が味を競う伊香保の楽しみの一つ

## 多くの文人たちに愛された湯

「古久家」のご主人・森田繁さんに伊香保のシンボル・石段街を案内していただいた。「この石段街が作られたのは、1575年の長篠の戦のあと。戦いに敗れた武田勝頼が、傷兵を癒すために作らせたのです。多くの兵が利用できるように、山上からわき出す源泉を木製の導管で引いて、宿に分湯する『小間口』のシステムが整えられました」。日本史の一面面を担った石段といえる。

石段を登り、「黄金の湯」の源泉へと歩いた。「伊香保の湯は一見、無色透明ですが、鉄分を含んでいるので、空気に触れると茶褐色になります。神経痛や筋肉痛、関節痛に効くいい湯ですよ」と森田さん。手ぬぐいを湯につけると鉄分で染まり、それが伊香保の湯に入った証しになったという。

源泉から戻って石段を下っていくと、森田さんが、「小さいころ、いつも『からころ』という下駄の音と三味線の音が聞こえていました。今も耳に鮮やかに残っています

## す」と話してくれた。

多くの文人墨客が、その下駄と三味線の音に親しんだことだろう。下駄の音が響いた石段は、近年新しくなり、石段の一部には、この地を訪れた与謝野晶子の文章が刻まれている。足下の石段から目を上げると、浪子の見た夕暮れの上州の山々が広がっていた。

水沢観音(上)の周辺の野に遊ぶ浪子と武勇。小説では、初々しい2人の情感が、豊かに描かれている

水沢観音の門前町で栄えた水沢うどん。森田さんのおすすめは17代続く「始祖 清水屋」。社長の大河原清一さんも校友。つややかで弾力のあるうどんを、特製のごまだれでいただく。TEL 0279-72-3020 営業時間 11:00~17:00 (木休)

榛名山に向かう山道から見た伊香保の温泉街



蘆花臨終の部屋  
【徳富蘆花記念文学館】  
昭和2年7月、病床にあった蘆花は、強硬に伊香保行きを切望。主治医や看護師らを引き連れ、伊香保に向かい、9月18日、千明仁泉亭の離れで臨終を迎えた



榛名富士と榛名湖



古久家旅館  
明治45年創業。江戸時代、穀物を扱う店で、「古久」は「穀」の音を当てた。「黄金の湯」が源泉で、小間口から送られる源泉掛け流しの湯を楽しめる。  
〒377-0102 群馬県渋川市伊香保町伊香保52  
TEL 0279-72-3322 FAX 0279-72-2218  
http://www.kokuyaryokan.com/





別府温泉



宵街でかき立てられた創作欲

織田作之助(オダサク)が別府を訪れたのは昭和10年代。「夫婦善哉」のモデルである姉・山市千代が夫と共に別府に移り住んだのが縁である。胸を患っていたオダサクは、静養を兼ねて数回にわたり別府を訪れ、長逗留している。

「そのころとは街の様子もだいぶ変わったと思います。今は海岸も大きく埋め立てられてしまっ……」と語るのには、ホテル三泉閣社長の森澤章さん。別府の街並みが見下ろせるホテルの屋上へと案内してくれた。

「今はヨットハーバーになっている場所が、当時の海の玄関口・北浜。主人公の柳吉、蝶子が降り立った港です。船を降りたら、

すぐに温泉が楽しめる」というのが別府の売りでしたから、港の周辺はとてにぎやかでした。温泉で船旅の疲れを取ったら、地の味と酒を楽しみ、浴衣姿で街に繰り出す。いつまでも明かりの消えない流川通りと浜脇温泉の郭街。まぶしく見えたものです。

オダサクが描いた別府は、森澤さんの青春時代にも、にぎやかな温泉場として輝いていた。

「北浜周辺なら今も、昭和初期の名残がありますよ」。そんな森澤さんの言葉に誘われ、街を歩いてみる。

オダサクの姉夫婦が、その名の通り「夫婦善哉」というぜんざい屋を出していた場所は、今は中華料理店に。その裏手には波止場神社。昔はここまでが海だったという。神社をぐるっと回れば、市営の共同温泉・竹瓦温泉。登録有形文化財に指定されている建物

は、別府のシンボリック的存在だ。唐破風の屋根が美しい。

森澤さんの言葉通り、竹瓦温泉を含む北浜周辺には、今でも昭和の色街の雰囲気漂っている。

新しい店が建ち並ぶ目抜き通りを一步入れば、さまざまな街の表情に出合える。古い石畳、寺へと続く道に郭街の香りの残るスナック街、かつて芸者たちがお座敷に上がる前に手を合わせたという小さな神社。そして、竹瓦温泉から流川通りへとつながるのが、「日本ではいちばん古いアーケード」をもつ竹瓦小路。木組みの屋根と、店の古い看板と柔らかい光を放つ竹細工の照明が旅情を誘う。

物語の舞台・流川通りの今

オダサクが、故郷の大阪にある繁華街・道頓堀と重ね合わせて見たのが、主人公夫婦があこがれた流川通り。



流川通り 旧別府港跡から楽天地へと続く道。地下化された川が通り名の由来。別名を「名残川」という



港が北浜にあった昭和の初め、不夜城のにぎわいを見せた通りも、今は「田舎の小さな商店街」といった風情。その一角にある喫茶店「しんがい」を訪ねた。ここには、オダサクを中心に別府ゆかりの文学作品の資料を集めた「流



ホテル三泉閣 代表取締役社長 森澤 章さん 昭和41年商学部商業学科卒業 (もりさわ・あきら) 昭和18年大分県生まれ。本学卒業後、京都で4年間、旅行代理店勤務。その後、地元別府に戻り、家業である(株)ホテル三泉閣に入社し、現在に至る。現在、別府市青年会議所理事長として、別府の観光振興にも尽力している。

織田作之助 『夫婦善哉 続編』

別府の華やかさと喧騒に心奪われたオダサク 第2章はここに幕を開けた



いつまでも中町の小さな店でこそそそいで、せめて表通りの流川に出て、十間間口の大きな店で商売がしたいと、この願いは一刻も頭を去らなかつたのだ。流川通は別府の目買場所、芝居小屋こそないが、大阪の道頓堀筋に似て、昼間は亀の井バスが通じ、夜は旅館、料亭、カフェ、土産物屋まで殆ど軒並みに皎々と明るかった。

川文庫」が併設されている。

「作之助の小説に出てくる『ビリケン』なんかを中心に、カフェやキャバレーがたくさんありましたね。ネオンが消えないこの通りと、海岸を走る市電の窓から見る海、日本髪で砂湯を楽しむ芸者さん。いつもにぎわっていた別府が懐かしいですよ。最近、戦前の街並みを復活しようという街づくり計画が進んでいるから、ちよっと期待しているんですがね。隣り合わせた年配の女性がそんな話をしてくれました。

オダサクの作品を愛したこの店のマスターのオリジナル「オダサクコーヒー」が運ばれてきた。コーヒーを口元に近づけたとき、ゆらめく香に、セピア色の別府の街が重なった。



竹瓦温泉 地元の漁民が、温泉を楽しむために竹瓦びきの小屋を建てたのが発祥。(入浴料) 普通浴百円、砂湯千円



波止場神社 鉄腕・稲尾投手が少年時代、キャッチボールをしたことから「稲尾神社」とも呼ばれる



ビリケン像 流川通りのカフェ「ビリケン」前にあり、繁華街のシンボルだったビリケン像は、現在は駅前通りの「ビリケン食堂」にある



オダサクコーヒー 濃いめのコーヒーにたっぷりのミルクが美味しい懐かしい味。一杯五百円



ホテル三泉閣 昭和30年創業。宿名の通り、3つの泉源をもつ温泉宿。寿司職人を創業者にもち、食へのこだわりも深い。「別府地獄廻夕」と名付けた会席料理などが有名。〒874-0920 大分県別府市北浜3丁目6-23 TEL 0977-21-1155 FAX 0977-25-2726 http://www.sansenka.co.jp/





## 息子のために…世界を戦い抜いた 自分へのご褒美「手作りの金メダル」

優勝カップと一緒に掲げてくれて、「MURATA」の名前がみんなの上にあったのを見た瞬間は、本当にうれしかった。

金メダルを、自分ももらえるのかちょっと不安でした。だから、届いた瞬間は「ホッとした」というのが正直な気持ち。それ以上にうれしかったのは、息子がサプライズで用意してくれた手作りの金メダル。「息子のために」というのが、僕の最高のモチベーションでしたから。

ケガで一足先に帰国することになったワールド・ベースボール・クラシック（WBC）。決戦の場に最後までいられなかったのは残念だったけど、期待された結果や、さらに上を目指す決意は残してこれたと思うので、悔いはまったくありません。それに、帰国したら、WBCで日本中がビックリするぐらいに盛り上がっている。やはり「すごいものを背負っていたんだな」って、改めて思いました。

優勝した瞬間はテレビで見っていました。ベイスターズのチームメイトの内川が自分のユニフォームを

（むらた・しゅういち）昭和55年福岡県生まれ。本学経営学部在学中に所属した野球部では1年生からレギュラーとして活躍。3年時には東都大学野球リーグで優勝を遂げる。平成15年、ドラフト自由枠で横浜ベイスターズに入団。19、20年と2年連続で本塁打王を獲得したほか、北京五輪、第2回ワールド・ベースボール・クラシックでは主軸打者として活躍した。

## 家族でもある患者さんに いつまでも「顔の見える医療」を続けたい

物心ついたときから、患者さんと家族のような関係を築く父の背中を見てきた。

「だから、歯科医になったのは自然なこと。患者さんの中には、父の代からずっと治療に来てくださっている方もいて、子どものころの自分を知っている患者さんも多い。だからこそ、「失敗

できないな」「痛くしちゃいけない」という緊張感をいつももっています。

「かまくらの町」としても名高い横手は、冬には積雪が目線をはるかに超える雪の町。「雪国だから、人見知りの人が多いんです。でも、一度心を開いた人には、家族みたいに温か

いんですよ。そんな横手の人たちが、治療を終えて投げ掛けてくれる笑顔が、自分にとっては何よりのやりがいです。先端医療を追い求めることも大切だけれど、わたしはこの地で、いつまでも「顔の見える医療」を続けたいと思います。

学生時代は毎週末、ヨット部の合宿で汗を流したという先生の地元「家族」から元気をもらい、こぼれる白い歯にまだまだ「青春」が見える笑顔が頼もしい。



歯科衛生士に治療の説明をする石田先生



石田歯科医院  
石田知也先生

昭和59年松戸歯学部歯学科卒業

（いしだ・ともや）昭和33年秋田県生まれ。本学松戸歯学部歯学科卒業後、都内の歯科病院に勤務。平成4年、実家に戻り、本学OBの父親の経営する歯科医院に勤務。父子2代で治療にあたる。一時独立するが、15年、父親の死により現歯科医院を継ぐ。



横手市内では、ひときわ立派な自宅兼歯科医院の前でスタッフと



# 超一流を宿命づけられた人間国宝 大鼓の音は 今日も悠久の伝統を響かせる



現存する舞台芸術としては世界最古とされ、平成13年には「世界遺産」(世界無形遺産)に登録、世界からも熱い関心と尊敬を集める能楽。——日本人なら知らない人のない能楽だが、「よく観る」「よく理解している」人となると、必ずしも多くはない。

まして、舞台上で観客の注目を一身に浴びるのは、優美な能装束で幽玄に舞うシテ方(主役)。その後、紋服で器楽を奏する「囃子方」に関心を行き届かせる観客となると、よほどの能楽ファンに限られるだろう。

しかし、囃子方の存在は、登場人物を支え、劇の進行を担い、舞台を日常的な時空間から解放する上で絶大な効果を発揮する。人間国宝・亀井忠雄。囃子をリードする大鼓方の大家である。

## 能楽師・人間国宝 亀井 忠雄さん

昭和40年芸術学部演劇学科卒業

(かめい・ただお) 昭和16年東京都生まれ。父・亀井俊雄氏(人間国宝)、川崎九淵氏(人間国宝)、吉見嘉樹氏に師事し、昭和24年「熊野」で初舞台。平成6年、親世寿夫記念法政大学能楽賞受賞。10年葛野流宗家預かりとなり、14年重要無形文化財各個指定保持者(人間国宝)、16年紫綬褒章、新宿区名誉市民、国立劇場伝統芸能伝承者養成「能楽」研修主任講師。



謠本とは、謠のけいこで使用するテキスト。詞章の横に付された点の向きや形の違ひによって旋律的な動きが示されている

「一瞬とも永遠とも感じさせる音」  
ご自宅に隣接して一棟を構えたけいこ場。初夏にもかかわらず、「冬の道場」のような凛とした空気が張り詰めている。

清らかに磨かれた床に、長着と襦袢袴に身を包んだ亀井さんが端座する。床の間を背負った人間国宝——さながら一幅の画である。

大鼓を腰脇に構え、左手は茜の麻糸を捻った調緒を握る。右腕が半円を描いてゆつくりと開く。指先まで一直線に伸びた右手は一瞬の静止後、半円を素早く戻って鼓の皮を打つ。澄み渡った強い響きが無音を破る。一瞬が、はるかな時間に結びつくのを感じる瞬間だ。

**能楽を成り立たせる囃子方**

亀井さんは、能楽大鼓方の一流儀である葛野流宗家の伝統を引き継ぐ立場にある。

「葛野流は流祖・葛野九郎兵衛定之が太閤さん(豊臣秀吉)にひいきにされたことに始まるよ

うです」と、亀井さん。秀吉の名がボンと飛び出すあたり、ルーツはまことに古い。

江戸時代、能楽は幕府の式楽(公式の儀式用芸術)として手厚く保護された。將軍の能楽好きに倣った全国の大名は、能楽師を召し抱えて能の上演を競った。ところが、能楽の大スポンサーであった武士が階級ごと没落するという事態が起こる。明治維新である。

「そんな中、シテ方宝生流16世宗家・宝生九郎知栄という立派な大夫さんが、いつべんべしヤンコになった明治の能楽復興にご尽力された。囃子の再興にも力を尽くされた。囃子方がいなければ能は成り立たないということをよくご存じだったので

その囃子方をリードする、いわばコンサートマスターが大鼓である。大鼓の奏者は、シテが視覚的に表現する謡曲の内容を感じ取り、地謡(\*注1)の流れと調和させつつ、小鼓、笛(能管)、太鼓と呼吸を合わせ、舞台全体に劇的な立体性を与えている。

**名人というものの底知れなさ**

亀井さんは明瞭な声で話す。「掛け声」が鍛えた声である。その声は確信のこもった口調で名人の条件についてこう語る。

「能の五番立て(\*注2)を、全部舞い分ける、謡い分ける、打ち分けることができる人。これが名人です。これができるお方

は、わたしが生きた時代にシテ方・囃子方を含めて十指に届きません。

「そんなものですよ」と語る亀井さんの表情からは、名人という芸位がいかに到達困難なものであるかが深々と伝わってくる。押しも押されぬこの現代の名人でさえ、自らを語るべき「また若造」という言葉をしばしば使った。芸というものの底深さを示唆して余りある言葉である。

**本物に磨き抜かれた人だけが達する芸位**

そんな名人の芸位に到達するには、「若いときから本物の修業を受けること」だと言う。

小学3年生のときに「この道で行く」と心に誓ったという亀井さん。見るもの聴くもの感じるもの、すべてが「本物」の中で少・青年期を送った。5歳から父君・亀井俊雄氏に手ほどきを受け、以後、高校2年生まで川崎九淵氏と吉見嘉樹氏に師事した。川崎氏、吉見氏、そして父君の3氏は、いずれも明治から昭和に至る能楽の頂点を極め、葛野流の流勢を盛んにした名人。金の原石は金の鉱床の中で錬成されたのである。

この3名人が亀井少年に繰り返した教えがある。

「謡をうまくなれ、うまくなれば」と、お三方はもう徹底してこればかり。謡は基本中の基

(\*注1) 地謡……舞台の一隅で、謡曲の地の文を列座して斉唱する謡。  
(\*注2) 五番立て……能の正式演奏の様式で、一日に脇能(神能)、修羅能、曼能、雑能(物狂い能)、切能(鬼畜能)の順に能五番を上演するもの。



イラスト/なかだ えり

えんじゅがはま  
煙樹ヶ浜  
(和歌山県美浜町)



煙樹ヶ浜 ●日高川河口から日の岬へ向かって紀伊水道を望みながら、弓なりに数キロメートルも伸びる浜。紀州藩主の徳川頼宣が塩害を防ぐために植えさせた松林が、美しい姿で残されている。海岸は砂浜ではなく、波に洗われて丸くなった石で形成されている白浜。波の穏やかなときは、釣り人も多く見られる。ひな祭りには、家族が浜辺でお弁当を広げたり、お食初めには、浜の丸い小石を拾って、歯が丈夫になるようにと祈る習慣があるなど、地元の生活に身近な浜で、人々の憩いの場となっている。

「わたしはここでがんばれる！」  
そんな気持ちにさせてくれた美しい海

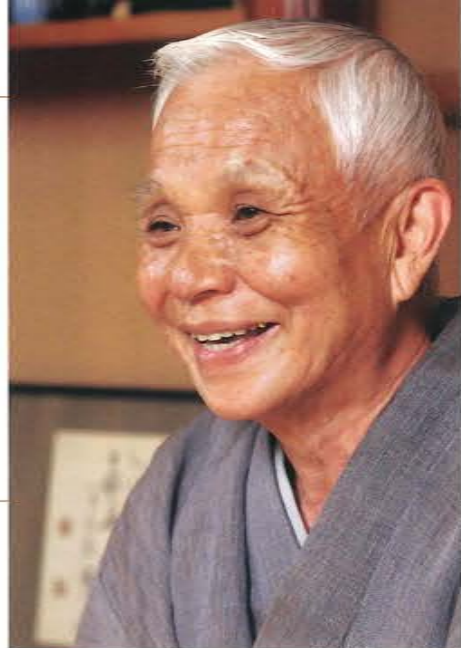
阪本 智子さん(旧姓・平家)  
昭和53年理工学部薬学科卒業



(さかもと・ともこ) 昭和30年東京都生まれ。薬剤師としての病院勤務を経て、昭和55年、和歌山県御坊市の老舗仏壇店「お仏壇の阪本」の後継ぎ・阪本仁志氏と結婚。ご主人の両親や親せきを含めた大所帯の中で、4人の子どもを育てる。商売と無縁に育ったため、初めは「いらっしやいませ」の言葉も言えなかったが、ご主人の薫陶を受け、今では店も切り盛りする。

東京から御坊に嫁いで30年——煙樹ヶ浜の風景は、その毎日を支えてくれた、かけがえのない宝物です。  
学生時代から付き合っていた主人との結婚を決意し、ご両親にあいさつに伺ったときのこと。主人は、緊張気味なわたしの様子を察して、「近くに海があるから」とドライブに誘ってくれました。  
心地よい風を受けて緑に囲まれた道を走っていると、突然、行く手が開け、キラキラと輝く夏の海が目飛び込んできました。  
岬まで弧を描いて続く白浜と、宝石をちりばめたように青く輝く海——ふるさとを遠く離れ、知らない土地で暮らす心細さを感じていたわたしの不安を、一瞬にして吹き飛ばしてくれる景色でした。  
「こんなきれいな海があるのなら、どんなにうれしいことがあっても、大丈夫!」。そんな力強い気持ちがわき上がったのです。今でも、時間があると主人と出掛けますが、浜のすがすがしい空気に包まれると、2人で将来のことを語り合ったことが、昨日のことのように思い出されます。

なかだ えり/平成9年生産工学部建築学科卒業。フリーのイラストレーターとして、現在、『読売新聞夕刊』首都圏版に「なかだえりのさんばるば」(毎週火曜)を連載中。



本。謡があつて初めて舞い、囃すことができるからです。

謡本は、主として七五調の和歌に基づく詩文と漢詩の混用文。これが、散文には不可能な時空間の自由な変換やイメージの飛躍という能独特の詩劇をつくりだす。

謡本には難しい漢字が並ぶ。亀井少年は謡本に仮名を振ってもらい、けいこに通うたびに違う謡を「丸暗記」して臨んだ。意味よりも、まず謡の詞章、旋律、リズム、間を体に入れた。繰り返すうち、やがて謡本が自然に読め、シテの意図を感じ取るようになった。

「謡曲のイメージがしっかり把握できれば、大鼓も掛け声も的確に行くべきところに行けるようになる。でもね、子どものころはもう意味なんか全然わからなかった。破顔一笑。重厚峻厳な芸風で名高い亀井さんだが、ふと見せる笑顔は春の日差しのように柔らかい。

超一流でなくてはならない

亀井さんの「本物」主義は、後進の教育にも貫かれている。「けいこで大事なものは理屈ではなく、体を通して覚えること。だから、僕はけいこにもすべて本物を使います。たとえば調緒。これ、麻でできた本物を使うと5、6回で切れちゃう。そこで、ロープで代用したりする。でも、僕は道具から着物まで、すべて本物を身に付けて後進に見せる。そうするとね、口で言わなくても、彼らは気付くんです。本物のもつ力です。」

亀井さんのご子息・広忠氏も

また、「本物」の中で磨き上げられた葛野流大鼓方のホープであり。超一流でなくてはならないんです。「うちの跡継ぎに一流はいらない。超一流でなくてはならないんです。」

破顔一笑。重厚峻厳な芸風で名高い亀井さんだが、ふと見せる笑顔は春の日差しのように柔らかい。「本物」の系譜と求道者としての凄味が伝わる力強い一言だった。

日大の庭で触れた新鮮な息吹

18歳になった亀井青年は芸術学部演劇学科に進んだ。古典芸能の若き継承者は、日本大学の庭で多様な演劇青年の息吹に触れた。

「演劇論や演出プランの勉強は、とくに新鮮でした。ねえ。学費は自分でまかした。」「通常の舞台を務めながらの学生生活で、稼ぎはありましたから。」「学生時代を回顧する亀井さんの表情がひととき輝く瞬間があった。話題が親世寿夫氏(注3)に触れたときだ。」「僕は寿夫さんのことを話し始めた。」「めたら止まらない」と前置きし

た後、「寿夫さんは16歳年上で、子どものときから『お兄ちゃん』と呼んで慕っていました。大学時代ころから『先生』として仰ぎ、何をすることも付いて回ったものです」と、なるほど口調が弾む。

観世氏は、能楽における役づくりや謡本の解釈など言葉を尽くして語ってくれた。それまでの亀井さんの師匠はいずれも明治生まれ。「体で覚える」主義で、多くを語らない。「だから、(観世)先生からはものすごい影響を受けました。大恩人です。」

能楽を支えるファンを育てる

伝統は継承されなくてはならない。しかし、「遺産として残っていくようではだめです。どうしたらお客さまに喜んでいただけるかを考え続けなくては」と、亀井さん。  
能楽を継承し発展させていくのに必要なものは何か。その答えを「能楽師の不断の精進はもちろん、能楽を支えてくださる

お客さまを育てること」と言う亀井さん。能楽に親しんでもらうための小学生向け体験レッスンにも足を運ぶ。最後に、手のひらを見せていただいた。思いのほか小さい。人差し指の先端と手のひらの底に、小さな褐色のタコが点じている。それは、まさしく亀井さんの六十年の肉體と精神の極限的な集中の痕跡であり、葛野流四百年の現代の頂点を示す刻印にはかならなかった。

大鼓は、2枚の馬皮と桜の木をくり抜いた綱を、調緒と呼ばれる麻紐で堅く組んだ楽器。演奏のたびに組み立てる。



(注3) 観世寿夫(かんぜ・ひさお/1925~1978)……観世流シテ方。古典の正統な継承者であると共に、日仏演劇交換第1回留学生として滞仏するなど、さまざまな演劇運動にも参加。戦後の能楽をリードする存在だった。能楽研究者としても名高い。



熊本県荒尾市長

前畑 淳治さん

昭和43年理工学部土木工学科卒業

(まえはた・じゅんじ) 昭和20年熊本県生まれ。本学卒業後、建設会社に就職。9年間のサラリーマン生活の後、地元の荒尾に戻り、父が創業し、叔父が経営する工務店に就職。昭和57年、37歳のときに熊本県議会議員選挙に出馬し、トップ当選。以後20年間、県議として県政の場で活躍。平成15年、荒尾市長選に出馬し、当選。19年に再選を果たす。現在2期目。



### 身魂なげうちふるさと再生に挑戦 みんなが誇れ、元気に暮らせる町を目指して

熊本県の北西端に位置する荒尾市。「小岱焼」「五徳焼」とも呼ばれる「のふるさと」として知られる小岱山を東に仰ぎ、西に美しい夕陽で名高い有明海を望む。得がたい山海の自然に恵まれた町である。

いまでこそ、ひっそりとたたずみありふれた町だが、かつては三池炭鉱の町として、日本のエネルギーを支え、国力増進の基幹を担った。当時、「黒いダイヤ」と呼ばれた石炭に人々が群がり、最盛期には人口6万7500人、炭坑従事者は3000人を数え、町は人々の熱気にあふれていた。しかし、昭和30年代以降、エネルギーの中心が石油に移ると、人々は新しい職を求めて町を離れていった。

#### 「町に再び元気を取り戻す！」 第1ラウンドは財政再建

「熊本県議会議員を20年やってきましたが、県議という仕事に限界を感じました。議員では、執行と経営ができないからです。ちょうど前市長が勇退されるというタイミングもあって、思い切って市長選に出馬しました。」

前畑淳治氏が荒尾市長に就任したのは、平成15年。このとき、市は極度の財政難に陥り、財政再建団体に転落する可能性さえあった。ここから、前畑市長の町に再び元気を取り戻すための挑戦が始まった。まずは、財政改革。

「就任してすぐに、3か年計画を立てて、行・財政改革に着手しました。」

このタイミングで前畑氏が市長となったことは、荒尾市にとっても幸運といえた。自民党熊本県議団の政調会長を務めていた平成12年当時、熊本県の財政は逼迫を極めていた。このままでは次年度の予算が組めない……とまでささやかれた議会で、財政改革に当たったの提言を座長としてまとめあげた

のが前畑氏だった。この経験と実績が市の財政再建に功を奏した。

「人件費の抑制、事業の見直しや公共工事のコスト縮減などによる投資的経費の抑制……市民の協力と、職員たちのがんばりで、取り組んで2年目から、少しずつ結果を出すことができました。」

前畑市長のふろつた大ナタにより、財政収支は、17年度から単年度黒字を達成し、18年度で累積赤字を解消。財政効果額は16・18年の3年間で、目標の56億2千万円を大きく超える63億7千522万円となり、3か年計画における数値目標をすべて達成した。

さらに、赤字の温床となっていた公営企業の運営の見直しにも乗り出した。

「市民病院は、地方公営企業法を全適用するなどのこ入れをし、一昨年から昨年は、約6億5千万円の改善がみられ、今年は何とか黒字を出せるのではないかと期待しています。」

医師不足により急速に収益が悪化していた市民病院は、19年度決算で累積赤字が41億円にまでふく

③ ありあけの里 半農半漁地域の中心にあり、新鮮な野菜と有明海で捕れる新鮮な魚介類がウリ。④ にんじん畑 荒尾駅前商店街にあり、惣菜工房を併設。一人暮らしのお年寄りに合わせた、一人分サイズの惣菜が好評。⑤ 青研 荒尾市に最初にできた徒歩圏内マーケット。隣にワイナリーを併設。新名物「荒尾乃葡萄酒」を開発、販売



れ上がっていた。そこで、20年度に総務省が定める公立病院改革プランを策定。公立病院特例債の借り入れを行い、一時的な負担を軽減し、さらに人件費の適正化や経費の削減を行うことで、赤字額を縮減した。

19年度から抜本的改革に着手したものに、荒尾競馬がある。かつては隆盛を極めた荒尾競馬も、10年度以降赤字が続き、18年度決算時点で累積12億円を越す赤字を計上していた。

「賞金格下げなどによる削減策と、インターネット販売の強化などによる増収策を両立させ、存続を前提に再建を目指しています。」

目標の黒字化は達成できなかったが、単年度赤字を4千万円にまで圧縮した。

「馬場の向こうに有明海が見える荒尾競馬場は南限の競馬場として80年の長きにわたって市民に潤いを与えてくれた施設です。だから、簡単には閉められない。長期的視野に立った競馬のあり方を検討しています。」

#### 「近所さんと話せて、 元気になる地域再生

現在、荒尾市では2030年までに有明地域の「優都」を目指す「2030あらかわ有明優都戦略」を策定し、さまざまなプロジェクトを官民一体となって進めている。

中でも特筆すべきは、「食」をテーマにした地域再生事業。

「16年に、当時の小泉首相から発せられた地域再生事業に関する政策募集で、わが市の提案した『食』をテーマにした地域再生事業」が採用され、地域再生マネージャーを派遣してもらいました。

事業の中心は、過疎化や大型ショッピングモールの進出でシャッター通りとなった商店街の空き店舗を、地域おこしの拠点に変えること。

「高齢者が徒歩で行ける徒歩圏内マーケットを作ること、地域の活性化を狙っています。」

4人に1人が75歳以上の高齢者という荒尾の現状にマッチし、現在、「青研」「ありあけの里」「にんじん畑」の3店舗が営業している。中でも、「青研」からは、新名





## 丸八やたら漬

新聞 芳則さん

昭和52年経済学部産業経営学科卒業

(にいぜき・よしのり) 昭和28年山形県生まれ。株式会社丸八やたら漬代表取締役。本学卒業後、東京・渋谷スペイン坂で6年間、飲食店を経営。その後、実家の経営する丸八やたら漬に入社。平成21年4月代表取締役就任、現在に至る。



明治18年創業。当初はみそ・しょうゆ醸造を生業とし、副産物として漬物加工を始めたが、昭和40年代ころから漬物の加工・販売に特化。建物は、山形の近代商家建築の好例として登録有形文化財(建築物)に指定されている。

営業時間 ● 午前9時～午後7時  
 定休日 ● 無休  
 交通 ● 車:山形自動車道山形蔵王ICより15分  
 鉄道:JR山形駅より徒歩15分、タクシー5分  
 住所 ● 山形県山形市旅籠町2-1-5  
 TEL023-634-4108  
 FAX023-634-4109  
 H P ● <http://www.yatarazuke.com/>

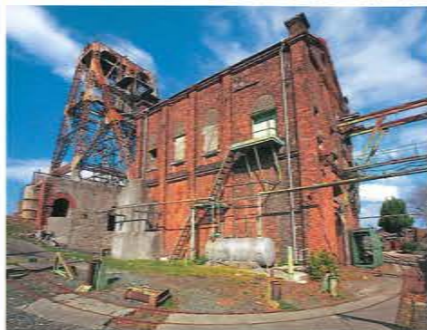


一口メモ

平成4年にオープンした本店横の「香味庵まるはち」は、大正時代の土蔵を改装し、懐かしい大正・昭和の雰囲気を生かした飲食店。のれんをくぐると古い店の看板や家具、木製のスキー、革製のスキーブーツなどが迎えてくれる。城下町やまがた探検隊として、山形の歴史にも詳しい新聞さんの話を聞きながら、名物の「漬物寿司」に舌鼓を打つのも一興。

## ■首長に聞く

「九州・山口の近代化産業遺産群」の一つとして、世界文化遺産の候補に登録された、国重要文化財「万田坑」の最盛期(上)と現在(下)



物「荒尾乃葡萄酒」も生まれた。「お店では、地元を生産者が作った新鮮な野菜や果物、地元の水が採った生きのいい魚が安く手に入ります。お年寄りも、歩ける範囲で買物ができ、近所の人とお付き合いもできる。生産者にとっても、少ない量でも商売ができるメリットがあります。市民の皆さんには大変喜んでいただいておりますので、さらに店舗を増やしていきたいと思っています。」

この再生事業は、19年には、総務省から「地域づくり総務大臣表彰」と、日本都市計画協会から「まちづくり奨励賞」を受けた。まさに、市民と行政が一体となって、荒尾に新しい活力を与えている。

前畑市長の熱いまなざしは、町に残された文化遺産にも注がれている。かつて三池炭坑の主力坑の一つだった「万田坑」がそれだ。国の重要文化財及び史跡に指定されているこの坑道が、平成20年に「九州・山口の近代化産業遺産群」の一つとして、世界文化遺産の候補に登録された。これを観光資源として大きく育てたい。本登録を目指した活動が前畑市長の陣頭指揮の下で熱気を帯びている。

「数々の世界遺産登録を手がけた海外の専門家からも良い評価をいただいています。日本の工業化に貢献した石炭産業の、偉大な功績を世界中の人に見ていただきたい

### 市民の誇りを呼び覚ます

昭和30年代、最も荒尾市が活気に満ちていたころの市街。町には多くの若者、子どもがいた(右)。現在の荒尾市の大通り(左)



い。現場では、今年4月にオープンした万田坑ステーションを中心に、歩きながら歴史を学べるフィールドミュージアムを目指して、急ピッチで準備を進めています。住んでいることを誇れる町にするために

前畑氏自身、市長になって改めて荒尾の魅力を見直したという。「荒尾には、誇れるものがたくさんあるのに、ここに長く暮らしているとなかなか気付かない。日本で2番目に多く渡り鳥が訪れる有明干潟。甘くて美味しいジヤンボ梨。小岱焼に万田坑。それに、中国革命の父、孫文を支えた宮崎兄弟。」

日本人にはなじみの薄い宮崎兄弟も、中国では、今年4月にオープンした万田坑ステーションを中心

弟も、中国では、孫文に対する尊敬の念から、よく知られた存在だという。「中国、台湾の総領事が就任するたびに顕彰館「宮崎兄弟資料館」を訪れます。最近では、中国からの修学旅行も来ます。」

ふるさとの魅力を語る時、前畑市長の笑顔はとびきり華やか。「自分の責務は、市民が誇れる町で、市民が元気に笑顔で暮らせる環境を作ることです。市民の皆さんと、直接対話しながら、荒尾をもっと「いいところ」にしたい。そのために掲げた目標は大きく、すべてを実現することは難しいかもしれませんが、大きな目標があるからがんばるんです。」



「中国革命の父」孫文を支えた宮崎兄弟の生家(上)と兄弟の顕彰館「宮崎兄弟資料館」(下)

## かみしめるごとに食が進むお漬物 雪国の「お母ちゃんたちの味」

ダイコン、ニンジン、キュウリ、ナス、レンコン、ごぼう…かみしめるごとに現れてくるたくさんの野菜の食感。子どものころ、夏休みにおばあちゃん家で食べた漬物の、においを嗅いだだけでごはんが進んでしまうような、あの懐かしい味わい。

山形では知らない人のない「丸八のやたら漬」。その語源は、「やたらめつたら漬ける」。野菜の葉っぱから、切れ端、根っこまで、台所の残り物を細かく切って「やたらめつたら」布袋に入れ、袋ごとみそに漬ける。雪国の冬の食卓を楽しむために、お母ちゃんたちが工夫を凝らした保

存食こそが、やたら漬の原風景。

「農家の女性たちのアイデアをいただいて生まれた商品はたくさんあります。どこか懐かしい家庭の味を、いつまでも大切にしたいですから。「やたら漬」をメインに、この地方特産の野菜を細かく切り、独特の味わいで漬けた「おみ漬」や、唐辛子のしょうゆ漬「おみ漬」や、唐辛子のしょうゆ漬「おみ漬」など、時代が求める味に合わせて、商品開発は進めています。」

古き良き山形を愛し、懐かしい山形の味を愛する社長の新関さんが生み出す「懐かしくてほっこりする味」に触れると、忘れかけていた夏の日の思い出がよみがえってくるような気がする。



# 隠岐。プラザホテル



**横地 龍男**さん  
昭和39年農獣医学部  
水産学科卒業

(よこぢ・たつお) 昭和14年島根県生まれ。株式会社隠岐プラザホテル取締役社長。本学卒業後、東京で就職するが、昭和40年代後半に始まる“離島ブーム”に即応し、故郷の隠岐観光の振興拠点として隠岐プラザホテルを創業、現在に至る。



隠岐プラザホテル (政府登録国際観光ホテル)

- 施設 ● 特別室1 和洋室17 和室17  
収容人数199 大浴場  
大宴会場 展望レストラン
- 交通 ● 隠岐空港から車で10分  
西郷港から徒歩で7分
- 住所 ● 島根県隠岐郡隠岐の島町  
港町11-1  
TEL08512-2-0111  
FAX08512-2-0521
- H P ● <http://www.okiplaza.com/>



—□メモ—  
島後は隠岐諸島最大の島で、周囲約100キロメートル。美しい海岸線が見え隠れする道路を気ままにドライブしたい。横地さんのおすすめは島の北東にあるローソク岩。夕陽が“揺らめく炎”になる瞬間が、海上から眺められる。ひなびた風情ながら、古くから流刑の貴人たちを迎え入れた島の人々の情は深い。紺碧の海と白波、緑の木々の映える自然に抱かれて、島ライフをゆっくりと過ごしたいものだ。



## 出船入船、漁火灯る旅情に浸り 山海の美味に舌鼓

隠岐諸島最大の島「島後」の玄関口・西郷港は、その昔、北前船の風待ち港でにぎわった歴史ある港。今も、フェリーや高速船が行き来する雰囲気、かつての風情を残している。

「隠岐プラザホテル」は、西郷湾に注ぐ八尾川のはとりに建つ。島随一の老舗のホテルで、部屋は全室海に面し、西郷港の旅情と刻々と変化する海の美しさが存分に味わえる。

お楽しみ夕食は最上階のレストランで。見事な夕景もさることながら、目の前に並べられた料理の数々に圧倒される。桶に盛られた隠岐の海の幸をはじめとする料理は美味、芳醇このうえない。

「隠岐の恵みをふんだんに取り入れ、

丹精込めた料理が自慢です」と話す横

地龍男さん。地元産物でお客様をもてなすことが大原則だという。食卓を飾るのは海の幸ばかりではない。隠岐は山の恵みも豊かだ。春には、横地さんが自ら摘んだ山菜や掘った筍が、新鮮なまま、お客様への食膳に彩りを添える。米もまた自分の田んぼで育て、みそまで自家製という手作り感もうれしい。このような料理に対する熱意は、お客様の高い評価(旅行会社のアンケート結果)に表れている。

豊かな水も恵みの一つ。当然、地酒は清冽かつ滑らかな味わい。美味美酒に酔って、ふと窓外を見ると、夕間に浮かぶ漁火に目を奪われる。おなかも満腹、心も満腹である。

## 紹介 宿

OB・OGが経営している



本誌読者には、  
夕食時地酒(300ml)サービス

## 趣味 悠々

### 国藤 定保

昭和30年経済学部経済学科卒業

(くにとう・さだよす) 昭和6年東京都生まれ。本学在学中はバレエ部に活躍。卒業後は、本学臨時職員として1年間勤務の後、20代半ばで兄と共に照明器具製造販売会社を設立。60歳で勇退するまで経営に携わる。絵画では、2005年にスペインAMSC美術選考会・芸術文化遺産認定作家となるなど、とくに海外において受賞多数。ヨーロッパからの展示依頼も多い。

## イメージの源泉は人と触れ合った風景 絵の中に歌がある、それがわたしのスタイル

くなり、65歳を過ぎてから絵を本格的に再開しました。

作曲の楽しさを知ったのはその後で、70歳過ぎのこと。こちらも独学です。思い出の風景などをイメージした歌が先にでき、その歌が絵心を刺激して、絵をさらにイメージ豊かにしてくれるという好循環が生まれました。

この絵「岩波弾ける波のしぶきに虹を見た」も、そうしてできたもの。多くの人と出会ったインドネシア、パリの島のヌサの浜辺が舞台です。普段は静かな浜が、世界中からやってくるサーファーや優雅な踊り子、力強い漁民たちで色めき、熱気あふれるイメージ。かの地の人々の、抜けるような明るさと温かさ、優しさを込めた作品です。



音楽が聞こえてきそうな絵、絵がありありと見えてきそうな音楽って、ありますよね。絵のもつ音楽性、音楽のもつ絵画性、その2つが交わるところに成り立つ絵を描いてみたいと、独自に編み出したのが、音符を絵の中に取り入れるというスタイル。このスタイルを始めたのは74歳のころのことですが、もちろん、世界でわたしだけがやっているオリジナル。おかげさまで、海外で過分な評価をいただいています。絵を描き始めたのは50歳のころからで、ほとんど独学です。50代の後半からは、ゴルフに夢中になって絵は一時中断。ゴルフバッグ一つ抱えて、アジアの国々を回りました。そうするうち、旅で出会った風景や人々の姿を残した



朝日新聞 東京本社  
 地域報道グループ 仙台駐在 記者  
**紺野 信幸**さん  
 平成3年経済学部経済学科卒業

(この・のぶゆき) 昭和41年福島県生まれ。本学卒業後、地元福島の地方新聞社に就職。その後、平成5年に朝日新聞社入社。第一線の記者として宮崎支局、熊本総局、西部本社社会部、東京本社地域報道部などで勤務。20年4月、本社地域報道部に仙台駐在が新設されたのに伴って同ポストに就き、現在は、東北エリアを広く取材している。

## オレが書かずに誰が書く！ 庶民の目線で世の理不尽に立ち向かう

東京地域報道部時代に、若い世代の就業観を伝える「タリLet's」を担当。大学生の働く意識や就職活動、企業の採用意識などを取材した朝日新聞記者の紺野信幸さんに、経済学部3年の柴田友佳里さんがインタビュー。日本大学新聞社で副編集長を務める柴田さんは、新聞記者という、将来の希望に一步でも近づきたいという気持ちでインタビューに臨んだ。取材される立場に回った紺野さんは、豊富な経験から新聞記者の仕事や、具体的かつ丁寧に話してくれた。

取材内容のうち、書けるのはわずか3パーセント。そこに記者としての魂を込める

お聞きしたいことはたくさんあります。最初に、新聞記者になった動機です。実際に記者になると、大変なことが多いと思いますが、楽しいと感じるのはどんなときですか？

ものを書くことは子どものころから好きで、新聞記者は面白そうだしは思っていました。しかし就職活動では、マスコミをはじめ、金融、航空、流通などさまざまな企業に足を運びました。ちょうどバブル期にあたり、有名企業数社から内定をもらいました。ですが、最終的に新聞記者を選んだのは、世の中の理不尽なことに正面切っ

て向き合える仕事として、やりがいを感じたからです。

熊本総局時代には「水俣病問題」の政治決着時の担当として、患者団体と国との最後の交渉を取材しました。ごく普通に暮らしていた人々が、企業や国の都合の犠牲となって、徐々に体をむしばまれていき、生活が一変し、経済的にも追い込まれていく。まさしく理不尽であり、それを見逃すことにはできないと思いました。

しかし、取材の現場は、「がんばればいい」「一生懸命やれば報われる」という世界ではありません。がんばっても一生懸命やっ



も、記事の材料を手に入れなければ無意味です。要は、話したくない、答えたくない、という相手から、どうやって事実を引き出せるかなのです。短い取材時間の中で、記事2行分だけでも、事実や本音を引き出せばいいのです。相手を見極めて、言葉や態度を選ばなければなりません。うまく引き出したときには記者冥利に尽きませ

す。そういう意味で、難しさと楽しさは表裏一体です。記者としていろいろな人に会って、話を聞けることは楽しみです。それによって新しい知識を得たり、新しい知見に触れたりできます。取材は毎回違って、繰り返しがありません。だから、難しいのですが、実に刺激的で、楽しさの源泉です。

事件を追うとき、自分の時間はありません。取材に  
 応じてもらえるなら、自分の都合もありません

やはり取材には苦労が多いようですね。ところで、一日のスケジュールはどのような感じですか？

とくに決まっていません。取材対象によります。例を挙げると、西部本社の社会部時代は北九州市警のサツキキャップでしたが、午前6時には取材用の車が自宅まで迎えにくるので、「朝回り」をし、夜、警察や検察幹部のところでの「夜回り」を終えて帰宅するのは午前2時過ぎ。いろいろな事件を追いかけましたが、自分の時間も都合もありません。体力がものをいいます。

記事の極意は副詞にあり！  
 短いセンテンスで  
 わかりやすく動きを示す

紺野さんは朝日新聞の「タリLet's」や「タリbe」の立ち上げに参加し、「花まる先生の公開授業」などの連載を担当なさっています。連載企画などのネタの探し方を教えてください。また、探しのコツはありますか？



ただ、取材でわかったことを100だとすると、そのうち書けるのは3パーセントくらい。読者に説得力のある記事にするために、どのような3パーセントを選ぶかが記者の腕の見せどころです。

取材にあたって事前準備をなさいますか？ また、再度の取材が必要になることもありますか？

わたしは、事前準備をしっかりと、相手がなかなか話してくれ

なくて困ることがあります。取材に事前の準備は欠かせません。限られた時間で、こちらの知りたいことを話してもらうためには、記者にも知識が必要です。準備不足のせいで、こちらの意図が相手に伝わらなければ、時間が無駄になります。取材相手に対しては大変失礼なこと。記事にする際に確かめたいことがあれば、再度の取材も行います。電話で済むこともあれば、再度会わなくては駄目なこともあります。

柴田さんが言うように、取材に快く応じてくれる人ばかりではありません。そういう人たちに對しては、まず自分のことを話します。そうして相手の口が開くのを待ちます。

もつとも、話せないようなことをしている人たちは、どんな手を使っても、こちらの知りたいことは話しません。話しても核心を外したり、事実と反することだったりします。こちら事前につかんだ情報や資料を示して追及することもあります。





## 社内にあっても、反骨精神を失わないこと。常識をうのみにせず、自分の心で判断することが大切



毎日新聞 大阪本社  
編集局 編集制作センター 記者  
**高橋 一隆**さん  
平成元年農獣医学部食品経済学科卒業

(たかはし・かずたか) 昭和40年大阪府生まれ。本学卒業後、帯広畜産大学大学院畜産学研究所修士課程に進学。同大学院修了後、九州大学大学院農学研究所博士後期課程へ。平成6年3月、同大学院を単位取得退学し、同年4月毎日新聞社入社。福井支局に配属、原発担当となる。広島支局で平和担当を経て、13年に大阪本社社会部配属となり、2年間で府警全課の担当を経験、数々のスクープをもつ。19年より現職。

### 28歳の新人新聞記者

大学院博士後期課程修了の年、学位取得が難しいと分かって退学を決断。就職にあたっては、新聞社勤務の先輩の勧めもあって、新聞記者を選びました。学究肌ではなかったし、研究対象であった農業について、それが抱える問題を取材を通じて考えてみようと思ったからです。就職活動を始めたのが遅くて、毎日新聞社に向いたら、「君、今日が応募の締切日だよ」と言われて、びっくり！ ずいぶんのおんきな出発ですが、ここから、わたしの新聞記者人生が始まりました。

とくに社会部時代は昼も夜もない生活でした。わたし専用の車があって、着替えからパソコンなどすべてを積み込んでの毎日です。その車、記者たちは「鉄の棺桶」って呼んでいますよ(笑)。内勤職場に移った今でも、「休む」感覚が身に付かなくて、休んでいると調子が狂います。



大阪府警では、捜査1課から4課までのすべての課を担当するという珍しい経験をし、組織内での人間関係の難しさも学びました。いろいろな人と付き合っただけで、地味な取材であっても、根気強く続けていくと、スクープにつながることもあります。

### 「記事を書く」ことだけが新聞記者の仕事ではない

一方で、失敗もたくさんあります。でも、決してめげないこと。食べていかねばならないし、命が続く限り、目の前の仕事に全力をあげることを信条としています。

新聞記者は、好奇心が強くなければやっていけない仕事です。社内に対しても反骨精神を失わないことが大切です。世の中や物事に対して憤りを感じることであれば、どんな人にも向いている仕事ではないでしょうか。

「新聞記者を書く」のは、「書く」ということが好きであれば、大丈夫です。ただ、社員の中には、新聞記者で採用されたのだから「原稿書き」しかやらないと言う昔タイプの人がいます。気概は良いけれど、「新聞記者」というのはあだ名のようなもので、資格でもなんでもありません。まず、サラリーマンとして、仕事をやりたくない姿勢が大切だと思います。

新聞記者になって15年になりますが、今も研究心は忘れていません。「食糧」は国の安全保障につながる重要テーマです。提出できなかった「博士論文」をベイスに、将来、本にまとめる決意で取り組んでいきたいと思っています。



ほしくらいですよ(笑)。面白そう企画が生まれるのは、たとえば記者仲間と酒を飲むときです。あんな話があった、こんな話もあるぞ、などとフランクに話している中でひらめきます。以前に取材した中では、「ケータイ文字」の開発秘話があります。携帯電話の小さな文字を、見やすく読みやすくするために試行錯誤したデザイナーを取材しましたが、これなどは普段当たり前のように使われているものの、世間に知られていない一面だったので、とても面白い記事になりました。最初にメーカーの社員との雑談でこの話を知ったとき、「よしっ、オレが書いてやろう」と思いましたね。

わたしも「日本大学新聞」に記事を書いています。主観を入れないとか、記事を書く上での制約の中で、いい記事にするのは難しいですよ。

よく、報道は不偏不党と言いますが、論調には、各社の社風が出ます。同じ事件でも、新聞によってニュアンスが異なったり、取り

上げ方が違ったりする理由です。同じように、記者の主観を排除することはできません。しかし、それでいいのです。要は事実をねじ曲げないこと。記事を書くときには、「聞いて、訪ねて、確かめて」わかりやすく、短くまとめます。この「日大新聞」で大学の予算に関する記事を書いたのは、柴田さんですか？ うん。どこの予算が増えて、どこが減ったか、という事実を端的にとらえていて、いい記事になっていると思います。

## 経済のしくみが社会のフレームをつくる。大学で学んだ経済学の知識は、社会の動きの把握に不可欠でした

——就活を目前にした学生、とくに新聞記者を目指す学生へのアドバイスをお願いします。

わたしは大学で経済学を専攻しましたが、新聞記者としての視点を養う上で、とくにミクロ経済学が役に立ちました。社会の動きや事件を把握するために、経済に対する知識が不可欠です。どの学部であれ、経済学は学べますから、新聞記者を目

美文にはなりえない内容で、腕のふるいどころのない記事だと、記者としては不完全燃焼かもしれないが、一読して予算の動きがわかる文です。記事をとめるとき、ポイントとなるのは副詞です。いい文を書こうとする時形容詞を使いすぎますが、それでは焦点がぼやけ、具体的なものが見えなくなる恐れがあります。副詞を上手に使うことで、動きを示し、読者に内容的に正確に伝えることができます。

指すなら、基礎力として勉強しておいた方がいいと思います。

いろいろなことに好奇心をもって、積極果敢に経験をすることも大切です。経験を積むにつれて柔軟な発想が生まれ、物事を多面的に見ることができるようになり、適切な判断力が身に付きます。

わたしは、若い人たちには、親や先輩たちとたくさん話すことを勧めます。彼らは経験の宝庫です



柴田 友佳里  
経済学部経済学科3年

学生記者として活動しているわたしにとって、プロの記者と会ったことは、とても刺激的でした。副詞を有効に使うことや、「3パーセントに胸をふるう」ことなど、新聞制作に生かせる話をたくさん聞くことができました。たとえ2行でも事実を聞き出せばいい、という気持ちで、忍耐強く取材に臨むことが大切だと感じました。世の中の理不尽なことに向き合う、という強い正義感があるからこそ、毎日のハードスケジュールをこなせるのだと思いました。将来、記者になりたいという思いが、話を聞いてもっと高まりました。

### インタビューを終えて

志望通り新聞記者になった場合は、そのモチベーションを保つために、ぶれない軸をもつことです。わたしの場合は「庶民の目線に立つ」ことです。とくに、地域報道に移ってからは身近な感覚を大切にしていきます。

たとえ小さな記事でも、書き方、取り上げ方によっては、人の生活を一変させます。それほど報道の影響力は絶大ですから。わたし自身も常に自分を戒めて、取材に臨みたいと思います。



### 司馬さんと天安門事件

天安門事件から今年で20年。事件の3カ月前まで北京に留学していたわたしのもとには、中国にいる仲間から刻々と現地の情報が届きました。現地の生の情報を知る立場で、国内の情報を見ると、産経新聞の論評的確だった。加えて、わたしは司馬遼太郎の大ファン！。司馬さんも元産経新聞記者でした。この2つが、わたしの人生の決定打です。歴史が好きで、それまでは大学院に行くか教師になると考えていたのに、「新聞記者は、今、動いている事象を記録する、歴史の『最初の記録者』なんだ！」と思えてきて、産経新聞社の試験を受けました。

当時、司馬さんは、産経新聞にエッセーを掲載されていたので、月に一度は司馬さんに会えると思ったんですが、そんなわけないですね（笑）。でも生前に一度だけはがきをいただき、感謝しました。新聞記者は「自分

の内部に、何ものにも煩わされない自由な存在としての、もう一人の理想の記者を持つべき」という内容でした。このエピソードは「新聞記者 司馬遼太郎」の冒頭に収録されています。

**真実を素直に受け止めるだけの心の柔軟性が必要**

誰もが「カラスは黒い」と言うし、自分もそう思っていた。でも実は白かったということが、世の中にはあります。自分の既成概念が崩れることはしんどいことですが、それを素直に受け止めて情報発信するのが新聞記者の仕事。それがスクープにもつながります。そのためには、体力に加え、精神力も必要です。

新聞記者という仕事は、人間が好きで、好奇心旺盛ならば、



間違いなく面白い職業です。目的意識があれば、遊んでいても温泉に入っただけでも、すべて仕事につながります。大学時代に柔道や剣術、茶道、書道、旅行といういろいろな経験をしました。そのすべてが今の仕事に役に立っています。

大切なのは、人と真摯に付き合う姿勢です。心が通い合うことで、初めて情報のやりとりができると思います。

新聞記者の仕事のスタイルに定型はありませんが、「好奇心」と「こまめさ」が、人より一歩抜き出る結果につながります。自分がすっぱ抜いた記事が、国を動かす結果となり、歴史に足跡を残すことができる。そんな仕事をしていきたいですね。

インターネットの普及で、情報発信の媒体が多様化し、新聞社の置かれた環境は厳しくなっています。でも、情報過多の時代だからこそ、プロとして高いスキルで情報を取捨選択する新聞記者という職業はなくならないと、確信しています。

### 産経新聞社 大阪本社

関西総局 編集部 記者

## 吉村 剛史さん

平成2年法学部政治経済学科卒業

(よしむら・たけし) 昭和40年兵庫県生まれ。本学在学中、北京大学に留学。卒業後、産経新聞社入社。阪神支局、社会部を経て平成13年から現職。事件・行政報道に従事。18年には社費海外留学生として台湾大学に留学した。取材先では陽気な巨漢記者として知られる。主なスクープは「李登輝氏訪日ビザ申請」「山口組トップ交代」「学研地球儀『台湾』消滅」など。

**歴史の1ページを自分の力で  
発掘する醍醐味。そのためには、  
好奇心旺盛なことが一番大切**



**「おばあちゃんはかわいく、おじいちゃんはカッコよく撮れ！」  
人間に「愛」をもたなければ、  
思いを伝える写真は撮れません**

### 読売新聞 東京本社

編集局写真部 次長

## 岩佐 譲さん

昭和58年芸術学部写真学科卒業

(いわさ・じょう) 昭和35年宮城県生まれ。昭和58年読売新聞社に写真記者として入社。60年から3年間静岡支局勤務。平成2年の1年間はプロ野球・読売巨人軍の担当となる。その後、北海道支社、国会担当、九州の西部本社を経て、19年から新聞監査委員会に配属。よりよい新聞づくりを目指す調査・分析を行う。本年4月より現職。5年には、皇太子ご成婚パレード時に撮った写真が第1面を飾る。

**写真記者は歴史の  
「最初の目撃者」**

新聞紙面で最初に目に飛び込んでくるのが写真。写真部は、そのすべてを担っています。写真記者は、日勤、夕勤、夜勤のシフトで勤務していますが、重大事件などが起これば、勤務体系などあつてないのと同じ。あらかじめコンサートや野球のチケットを取るなんて部員は誰もいません。バスポートなどは、いつでも海外出張ができるように会社が管理しています。わたしも、夕方の出勤と同時に、ヨルダン国王が亡くなったという急報を受け、そのまま政府専用機に同乗したことがあります。

入社してから、仕事のつらさのためにため息をついていたところ。硫黄島の海底火山が噴火したという一報が入りました。深夜プロペラ機で飛び、朝焼けの中、長さ20キロメートルにわたる溶岩が海面に流出しているのを見たときは、鳥肌が立つほど感動しました。新聞社に就職していな



ければ見ることでできない光景です。この仕事を選んで良かった、と思った瞬間でした。

記事は後からでも書けますが、写真記者はその現場に居合わせなければ写真を撮れない。その意味で、写真記者は、常に最前線にいる、歴史の「最初の目撃者」だといえるでしょう。ですから、編集局の中でも写真部には一番緊張感があります。

**「愛」がなければ、思いを  
伝えられる写真は撮れない**

高校時代、カメラマン・一ノ瀬泰蔵の本で、芸術学部の大木栄一先生を知りました。入学後、はもろん大木ゼミへ。「新聞研究」という授業では、先生の一言一句が心に響き、就職するな

ら写真記者以外は考えられなくなりまし。まずは就職課に行き、写真記者になった先輩の就職活動の体験記を読むと、ちょっとやそっとの勉強では採用されないことがわかりました。そこで、問題集を5、6冊買ってきて猛烈に勉強しました。マスコミを希望する方には、「まず筆記試験に受かるために勉強」することを勧めます。筆記試験の勉強をばかにする人がいますが、筆記試験を突破しなければ、いくら写真が上手でも入社試験をパスできません。また、英語ができるのと有利ですし、何か一つ、専門的な知識や趣味があれば、必ず役に立ちます。

でも、最終的に大切なのは、「愛」。写真を見れば、撮影者の気持ちや分かります。貧困地域の子どもたちを人間ではないような視線でとらえている写真を見ると心が寂しくなります。撮られた人が喜ぶ写真を撮る。それは、人を愛する気持ちをもたなければできないことだと思っています。



### 日本大学 医学部同窓会

岡野 匡雄 会長



(おかの・ただお) 昭和20年長野県生まれ。昭和45年医学部医学科卒業。(財)東京都保健医療公社 東京都多摩がん検診センター副所長。本学卒業後、医学部病理学教室へ。57年助教授。平成2年より(財)東京都保健医療公社 東部地域病院検査科部長、15年同病院副院長、16年より現職。21年4月、医学部同窓会長に就任。



今年の医学部同窓会定時総会(左)と「日大医学同窓新聞」(右)

日本大学医学部は、大正14年に、「日本大学専門部医学科」として神田駿河台の地に創設されましたが、本会は、医学科第1回生が卒業した昭和4年、「日本大学医学部同窓会」として発足、今年、設立80周年を迎えます。



設立以来、「同窓会員相互の親睦・懇親」「医学部への支援」「生涯教育、研修会等」の支援・推進」を旨として活動してまいりました。主な活動として、総会をはじめ、各種学術講演会、医学講座、支部長・卒業生年次代表者会などを開催し、親睦を深めてきました。医学部や同窓生の生涯学習に対する支援としては、学会開催担当者への補助金、学術奨励賞、若手研究者への研究助成金や医学部学生奨学金などの補助・援助事業を実施しています。同窓会活動や会員などの情報を発信する媒体である「日大医学同窓新聞」は、昭和26年に創刊号を発行以来、来年1月には600号の発行を迎えます。このような地道な活動が会員相互の親睦につながり、和やかで仲の良い雰囲気、本会の特色ともなっています。また、医学部との交流や連携にも力を入れています。医学部は、「よき臨床医の育成」を目標に掲げていますが、会員の多くは開業医、勤務医であり、地域医療に大きな力を発揮し、日本医師会でも最も多くの代議員を占めています。医学部にとって、このような校友の存在は大きな強みであり、有形無形のバックアップにつながると自負しております。さて、今年度の大きな事業は、なんといっても80周年の記念事業です。11月22日に帝国ホテルで祝賀会を開く予定です。多くの卒業生や学生のご参集を賜れば幸いです。今後も、常に前進を心掛け、会の運営に当たりたいと思います。

### 日本大学校友会 山口県支部



吉井 利行 支部長(右)  
(よしい・としゆき) 昭和23年山口県生まれ。昭和46年法学部政治経済学科卒業。卒業後、日新製鋼(株)勤務を経て、54年、山口県議会議員に初当選。以来、現在7期目。平成20年、日本大学校友会山口県支部長に就任。

山口県は学祖・山田顕義先生のお生まれになった土地。われわれ山口県支部の面々も、学祖生誕の地で活動することに誇りをもっています。山口県支部は、25年前に、校師会が発展する形で誕生しました。山口県は東西に広く、中央には山があるので、普段は地域別、職域別の分会がそれぞれ活発に活動し、2年に一度、支部総会を開いています。昨年は、前支部長・近間一義氏のご逝去後、空席となっていた支部長に、吉井利行が就きました。新体制の下、支部としての当面の目標は、支部会員の拡充と、さらなる分会の設立。昨今は、若い新会員の獲得の難しさや、運営役員の世代交代など、直面している問題もあります。それでも山口県支部としては、できる限り校友の情報を集め、会員を獲得し、新会員によって各分会が活況を呈して、支部全体の底上げをしていくことを期待しています。

斉藤 光さん(左)  
(さいとう・ひかる) 昭和17年山口県生まれ。昭和40年法学部政治経済学科卒業。山口県支部の創立メンバーのひとり。現在は山口県支部幹事長を務めている。



平成18年に開かれた山口県支部総会での記念写真

将来的な目標としては、顕義園の中に、山田先生の偉業をたたえ伝える資料館を造ること。遠大な計画かもしれませんが、学祖生誕の地で暮らす自分たちにとっての責務だと思っています。創立120周年である今年は、支部総会の開かれる年となりました。前回の支部総会には60人ほどの校友が集まりましたが、新支部長のお披露目の意味も込めて今年の総会の目標は100人超。かなうことなら、総長、理事長をお招きしたい。そして記念の年の支部総会として、昼は式典と顕義園と学祖の銅像の清掃、夜は懇親会で山田先生の偉大さを再確認するという、特別な一日にしたいと考えています。

### トップの肖像

### 平井 要子さん

昭和45年芸術学部写真学科卒業

(ひらい・ようこ) 昭和22年東京都生まれ。本学卒業後、大手代理店に勤務。その後、結婚し、二女をもうける。平成8年、有限会社東新アクアを設立し、代表取締役就任。「両国アクアハウス江戸遊」(現「両国湯屋江戸遊」)オープン。14年には同社を株式会社に変更。16年に「神田アクアハウス江戸遊」、17年には「市原天然温泉江戸遊」オープン。社団法人日本サウナ・スパ協会常任理事、東京商工会議所墨田支部評議員、両国協会役員、NPO法人隅田川・江戸文化観光振興会理事。

### 健康のための文化・温浴ですべての人が等しく癒されるビジネスを

東京・両国にある「江戸遊」ののれんをくぐると、目に鮮やかな江戸切子の細工の入ったカウンター。お風呂に入れば、壁いっぱいには和タイルで彩られた北斎の赤富士。まさに江戸時代の「湯屋」を再現した、懐かしくて心弾む、心身ともに癒される空間。

そんな場所を提供してくれるのが、株式会社東新アクア社長の平井要子さん。話しているだけで元気をもらえそうな、プラスのパワーにあふれた女性社長だ。

### 女性の視点で見た「風呂文化」が大ヒット!

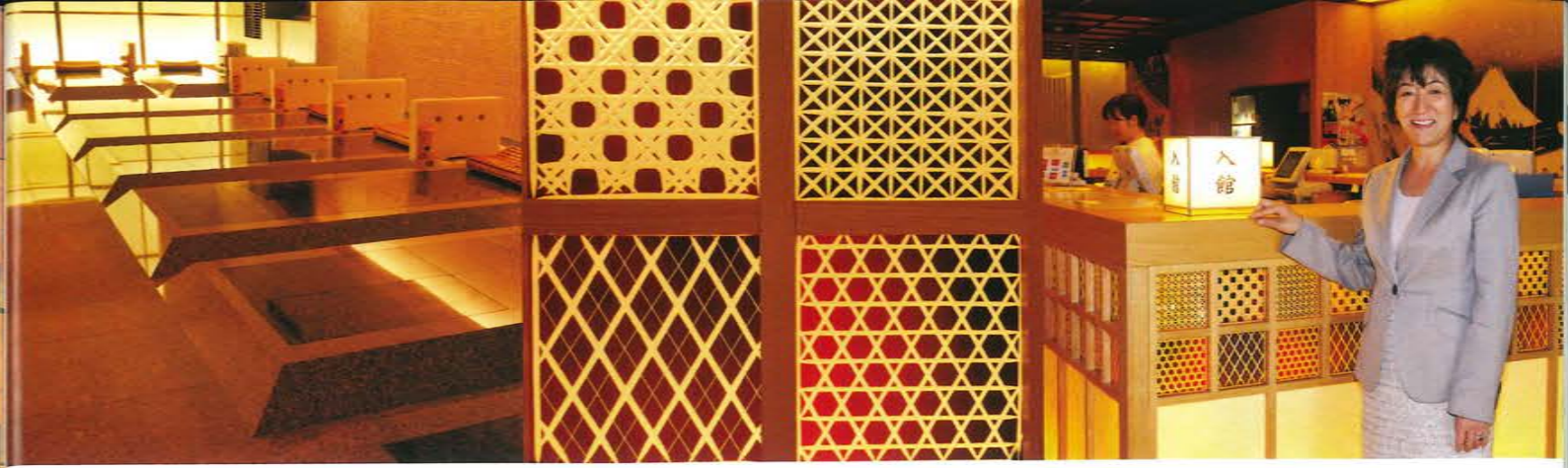
結婚後、長く専業主婦をしていた平井社長に転機が訪れたのは父親の死だった。

「亡くなった父が両国に土地を残してくれましたので、そこで何か事業を始められないかと。15年前のことです。ちょうどそのころ、残された土地の前の通りが「北斎通り」としてきれいに整備され、5年後には江戸東京博物館がオープンすることも決まっていた。歩いてすぐの所には両国国技館もある。

「土地を取り巻く雰囲気、江戸の情緒を感じさせる文化的なものに変わっていったんです。そこで、江戸時代から日本に残る、健康のための文化である『お風呂』をコンセプトにした商売を始めようと思いました。」

15年前といえば、「温浴ビジネス」という言葉もまだ一般的でなかった時代。サウナといえ





平井社長の江戸とくつろぎへのこだわりは、店のあちこちで発見することができる。①入り口の左右を占める下駄箱。下駄箱の真ん中にある彫金も、現代の江戸の職人さんが、一つ一つ丹精込めて打ち出した一品。②リラクゼーションチェア。それぞれの椅子の間隔を十分に取り、さらに廊下とチェアは粋なカーテンで仕切られるため、プライベートな時間をのんびりと過ごせる。③入り口ののれんにも江戸の職人の技が生きている。のれんの青は本物の藍で染め上げたもの。

両国湯屋「江戸遊」の店内は、現代の江戸の職人の技で彩られ、そこかしこに江戸の情緒を感じる。また、湯屋として、お客さまにゆっくりとくつろいでいただくことも忘れていない。④のれんをくぐると、最初に目に入る現代の番台。⑤番台を彩っている江戸切子。平板なガラスに施した切子は他にはない。平井社長の情熱が職人さんに作らせた一品。⑥岩盤浴を楽める施設。ここでたっぷり汗を流すと、体の芯から疲れが取れるという。

繁華街にあり、「健康ランド」という看板が国道沿いにやっとな始まったところだった。しかし、そこに女性としての感性を感じるものがあつた。

「わたしが、お風呂も銭湯もサウナも大好きだった、というのが基本ですが（笑）、当時は温浴ビジネスといえば男性のもの。女性が安心して利用できるような施設がほとんどありませんでした。女性の社会進出が進んで、職場では男性と対等に働いて、疲労やストレスは同じようにたまっているのに、それを癒せる場所がなかったんです。だから、女性が、心からリラクゼーションでき、疲れも取れる施設を造ろうと思ったんです」。

しかし、参考にはできる先行の事業例がほとんどない時代のこと。平井社長は、知人を通じて健康ランドを経営している社長に、温泉ビジネスについてのレクチャーを受けたり、ヨーロッパにまで行って温浴施設を見学したりしながら、経営に必要なノウハウを身に付けていった。

## 本当の大変さは 2店舗目から

「女性が安心して……、いまでこそヒットには欠かせないこのキーワードに、いち早く目を付けた平井社長。1号店となった両国店は、狙い通り男性客ばかりでなく女性客にも喜ばれ、順調にスタートした。そして、しばらくすると経営拡大の局面を迎えることになる。

「周囲が『パイオニアですね』と言ってくださるぐらい、競争する施設がほとんどなかったこともあって、会社設立から1年半ぐらいでビジネスとしての軌道に乗りました。本当に変なだったのは、『次の出店を』というお話を各所からいただいたからでした。出店を繰り返して拡張を図ったときは、既存のお店を維持しながら、それぞれの企画を練り、経営の打ち合わせをしなければなりません。体がもう一つ欲しいぐらいに忙しかったですね。でも、いま思うと、『楽

しくもあり、大変だった」という感じでした。

現在、「江戸遊」は3店舗。それぞれに特長があり、時代のニーズをそれぞれに表している。1年半前に全面改装した両国の本店は、江戸の職人さんが生み出す、粋で優美な工芸を各所にちりばめ、お風呂や岩盤浴をぜいたくな気持ちで、ゆったりと楽しんでいただける施設。2号店の神田店は、最上階にアクアビクス用のプールがあつて、女性にフィットネス感覚でお風呂を楽しんでいただける施設。3号店の市原店は、地下1600メートルから掘り出した天然温泉を、廉価で、家族で楽しんでいただける施設になっている。

## この町の江戸文化を 世界に発信していきたい

社長の言葉を借りるまでもなく、本店のある両国は、そこかしこに江戸の風情が残る町。裏路地で、リュックを背負い、ガイドブックを手にした外国人に

出会う。この町は京都や奈良などの古都では感じるこのできない、江戸の町人文化が漂う特別な場所なのだろう。

平井社長は現在、「江戸文化を再現できる観光立地としての両国」を目指して活動する「両国協力会」の役員や、「NPO法人隅田川・江戸文化観光振興会」の理事なども務めている。自らの店舗で表現してきた江戸の風流を、いよいよ町にまで広げようというわけだ。

「3年後の東京スカイツリー（旧名・第二東京タワー）開業に合わせて、もつとこの町の江戸文化を世界に発信していきたいと思っています。スカイツリーができたなら、ホテルとタワーを往復して観光を終えるのではなく、町を歩いてもらい、京都に負けないだけのいにしえの日本が東京にもあることを、世界中からやってくる人たちにも知ってもらいたいですね」。

江戸町の「粋」を伝えようとする平井社長のチャレンジに終わりはないようだ。

## 経営者に必要「センス」 センスは日大で学んだ

学生時代は芸術学部で写真を学んでいた平井社長。芸術と経営、一見するとまったく別の世界のことに思うこの2つのことも、社長にとってはとても強い関係性があるという。

「経営者にとって一番大切なことは『センス』だと思います。数字や時代を読む『センス』、スタッフとコミュニケーションする『センス』、人材配置の『センス』……。いまから言えば、経営に必要なセンスは芸術学部で身に付けたんです。

それに、日大って歴史があつて、大きい大学だから、どこへ行っても校友がいる。だから、初めて行く土地でも、すぐにその人たちと良い関係が築ける。本当にありがたいことです」。

取材の最後に、忙しい毎日のパワフルに乗り切る社長の「元気の源」を聞いてみた。

「元気の源は、『人』ですね。

### 会社情報

株式会社 東新アクア（平成8年10月創業）  
〒130-0014 東京都墨田区亀沢1-5-12 東新ビル2階

### 店舗情報

両国湯屋江戸遊 <http://www.edoyu.com/ryougoku/>  
〒130-0014 東京都墨田区亀沢1-5-8 TEL 03-3621-2611

神田アクアハウス江戸遊 <http://www.edoyu.com/kanda/>  
〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町2-9-9 TEL 03-3258-2611

市原天然温泉江戸遊 <http://www.edoyu.com/ichihara/>  
〒290-0035 千葉県市原市松ヶ島西1-3-43 TEL 0436-25-4126





**NPO法人**  
**ぎょうだ足袋蔵ネットワーク**  
代表理事  
**朽木 宏さん**  
昭和55年理工学部建築学科卒業

(くちき・ひろし) 昭和32年埼玉県生まれ。一級建築士。本学卒業後、(株)水澤工務店、(株)創和設計事務所を経て、平成2年、(株)構想建築設計研究所に勤務。各種ビル、商業施設、共同住宅などを手がけた後、独立。14年にクチキ建築設計事務所を開設する。16年、NPO法人ぎょうだ足袋蔵ネットワーク設立。ものづくり大学客員教授としても活躍している。

## 残された近代化遺産の価値を見直し 行田独自のまちづくりに生かす 主役は市民自身です

埼玉県行田市は、江戸から昭和中期まで、足袋作りが盛んで、往時は全国生産の8割を誇った「日本一の足袋のまち」として知られていた。市内には今でも、足袋を保存した蔵が70棟以上残っている。それらを「足袋蔵」と名付け、まちづくりに生かそうと活動しているのが、「NPO法人ぎょうだ足袋蔵ネットワーク」代表理事の朽木宏さんである。

### 足袋蔵を今に生かして まちあるき

新緑まぶしい5月の休日。粹に着物を着こなした人たちが、まち歩きを楽しんでいる。ここは埼玉県行田市。昨年、小説「のぼうの城」で一躍脚光を浴びた忍城の城下町である。

着物業の人たちは、今回で5回目となるぎょうだ足袋蔵ネットワーク主催の「ぎょうだ蔵めぐりスタンプラリー」の参加者。着物で参加すれば、200円の参加費は無料になるのだ。これまでのイベントで、「参加者から「足袋蔵のイベントなのに、足袋を履いている人がどこにもないのはおかしい

よね」と、指摘されたことがきっかけです。だから、足袋を身近に感じてほしいと、着物での参加を呼び掛けました」と、朽木さんが照れ笑いをしながら着物の訳を説明してくれた。

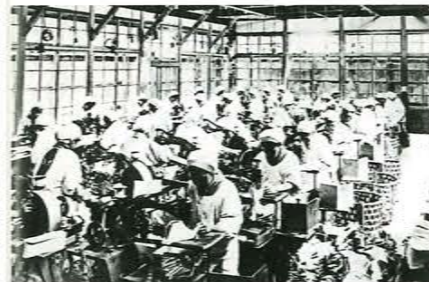


「スタンプラリー」は市内中心部に残る足袋蔵のうち16カ所を歩いて巡るイベント。多くの蔵では、内部の特別公開やスライド鑑賞、

秋口の出荷まで保存するためのものでした。みそ・しょうゆ蔵、大店が財産を守るための蔵とは用途が違いますので、「足袋蔵」という名前を付けて、特化させました」と、話してくれた。しかし、そんな朽木さんも、子どものころは「蔵はお金持ちの家にあるもの」としか思っていなかったという。だが、朽木さんの今の仕事場は、



着物姿も艶やかに。スタンプラリーの参加者たち



昭和初期の行田の足袋工場



イベントでは足袋作りの実演も(足袋とくらしの博物館)



スタンプラリー開会のあいさつをする朽木さん

古い蔵を改装して、建築設計事務所所に転用したもの。蔵の修理を依頼され、調査に入り、風格ある蔵の風情に魅了され、オーナーに頼み込んで事務所に改装してしまっただのだ。音大出身の奥さまの要望も取り入れ、1階は小さなコンサートができるように設計し、若き音楽家たちの活躍の場としている。

これが転機となった。古い蔵を上手に再活用した朽木さんを見込んで、市の商工会議所が昭和初期に建てられた元足袋原料問屋の見世蔵「忠次郎蔵」の有効利用への

再活用案は、ギャラリー、物産館など、いくつものアイデアが出た。しかし、朽木さんは「行田の近代化遺産を市民にこそ身近に感じてもらうなければ」と、昼間誰かがランチを楽しめる「そば屋」という案を強く推した。蔵の改修設計は朽木さんが担当し、平成16年に忠次郎蔵は本格手打ちそばの店として生まれ変わった。

忠次郎蔵の改修事業と同時にNPO法人を立ち上げた。「有効活用できる蔵はまだまだある。それらを後世に残していく」活動を継続させて行くための器づくりである。NPOの事務所は忠次郎蔵の2階に設けた。これまでに再生さ



時田蔵



大澤蔵



朽木さんが改修設計を手掛けた忠次郎蔵。正面は昔の店舗部分



戦後の行田を代表する石蔵・舞原蔵



大正時代の蔵を改装した朽木さんの事務所



最盛期、写真に写る足袋会社の従業員

**NPO法人ぎょうだ足袋蔵ネットワーク**  
〒361-0077 埼玉県行田市忍1-4-6  
TEL&FAX 048-552-1010  
e-mail gyoda@tabigura.net  
http://www.tabigura.net/

国登録有形文化財に指定された。行田の特長を生かし、生活に直結するまちづくりを

「足袋蔵」の特徴は、裏通りに面して建てられていること。住居が

建てられた後に、足袋産業が発展し、表通りに面して建てられていた住宅の庭に足袋工場、そして一番奥の裏通りに面した場所に蔵が建てられたためだ。前出のスタンプラリーは、その特色を生かしたイベントといえる。朽木さんは「路地裏を迷いながら、蔵を巡る楽しさを知ってほしい」という。

朽木さんに、これからの活動について聞いた。「今後は、代替わりして蔵を管理していくことになり若い人たちが自身が、蔵の再活用と保存を考えていかないと駄目だと思います。だから、わたしはそのきっかけをつくり、軌道に乗ったら彼らに主役はバトンタッチしたいと考えています」。

蔵は大金持ちの家にあつて、「宝物」が入っている建物だと思っていた少年は、大人になって「蔵」そのものを、行田のかけがえのない宝物にやみがえらせた。「足袋蔵」は、きっと行田の新しい魅力となることだろう。



夢に向かって!

# 人間のつながりがすべてを運んできてくれた だから、人が一番の財産

中国語通訳 細川裕子さん  
平成12年国際関係学部国際文化学科卒業



山西省平遥で、チンドン屋さんと。平遥は、明代の城壁がほぼ完全な形で保存されている中国唯一の町。築100年を超える建物が多く残る

(ほそかわ・ひろこ) 昭和53年福井県生まれ。本学卒業後、台湾で日本語専任講師などをし、平成17年からは司法通訳として活躍。19年に中国人民大学大学院法学部へ国費留学生として留学。21年同大学院修了。同年同大学院博士後期課程に進学。20年には北京五輪外国人ボランティアとして、オリンピックとパラリンピックの運営を支えた。

## 小学生で気づいた 偉大な国・中国

細川さんが、中国の偉大さに目覚めたのは小学生のとき。きっかけは、学校にあった二宮金次郎像が手にする本が、四書五経の一つ「大学」だということを知り、それを読んで感銘を受けたことだ。また、習っていた茶道、華道、書道を通して日中両国の文化に根ざす深いつながりに目を開かされた。同時に、それらすべての源流は中国にあることを知った。

「こんな素晴らしい思想家や文化を生んだ国に行ってみたい!」

## 人の数だけ中国がある

細川さんは中国へのあこがれをふくらませ、国際関係学部に入學した。

念願だった中国への留学が実現したのは大学3年生のとき。1年間の南京大学留学だった。当時の中国では珍しかったホームステイを経験し、生活習慣や文化を肌で学んだ。また、一人で中国各地を旅行し、多くの人と語り合い、中国の壮大さを身に染みて感じた。その見聞の広がりが、細川さんに「人の数だけ中国があるのだと知りました」と言わせる。

## 日中共通の 財産を目指して

去年開催され



中国人民大学大学院の学位授与式でのクラスメートとの記念写真

た北京五輪とパラリンピックで、細川さんは難関の外国人ボランティアの「専家庭席（スペシャリスト）」に採用され、北京市内の多言語コールセンターで約2カ月間にわたり大会運営をサポートした。五輪期間中、乗ったタクシー運転手から「五輪を手伝ってくれている人からお金はとれないよ」と言われ、「変わる中国を感じた」と言う。細川さんが学ぶ中国人民大学大学院は、中国国内でトップクラス。知的財産学を学ぶことが志望動機だ。

「日本と中国は隣同士で関係が密接な分、問題も数多くあります。たとえばコピー商品。これは日本の産業の死活に関わる問題です」。

知的財産をめぐる日中間のトラブルを未然に防ぐ役割を果たしたい。そんな使命感で知的財産学を学ぶのは、「争いのない世界になってほしいから」。

細川さんの言葉の端々から、伸びやかに広がる世界観と人間観がにじみ出る。彼女がこれから日中間に架ける橋は、きっと両国の人々の財産になるにちがいない。

## お達者通信

「16年前に家内を亡くしてからは、ふとんの上げ下げから食事や着るものまで、すべて自分でやっていたのですが、最近はずっと目が悪くなってしまってます」と話す林さん。背筋がびんと伸びた姿勢の良さは、とても明治45年生まれには見えない。若いときに励んだ弓道と戦争体験が林さんの背骨を貫いている。

大学時代は日本が泥沼の戦争へと傾斜していく時代と重なった。「残念ながら、戦争中なので大学の思い出はあまりありません。ああいうご時世でなければ、もう少し勉強できたと思います。平和な世の中で生活できるというのは幸せなことですよ」。

に相談役を退くまで、小田急線のラッシュにもまれ、毎日会社に通った。戦後の高度経済成長を支え、オイルショックに対応し、バブルとその崩壊の処理を経験した企業マンともいえる。

健康の秘訣は、若いころから食事に気を使っていたこと。納豆、梅干、ごまは食卓に欠かせない。50歳から始めたゴルフは、熱心に練習し、最近までコースを楽しんだ。

2年ほど前、腰を強く打って寝たきり状態になりましたが、懸命なリハビリの結果、歩けるようになった。今は、ちよつと目が悪いくらいで、すこぶる健康だ。

「迷惑を掛けないように丈夫でいたいですね。体に気をつけて生活したい」という言葉に、まだまだ、「これから」という気概が伝わってきた。

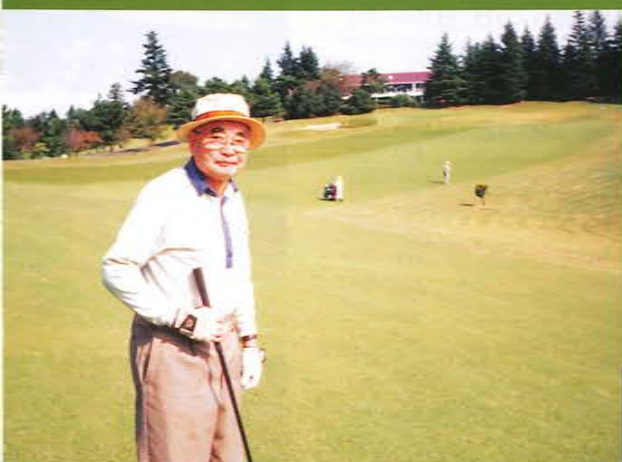
## “平和な世の中”に生きていることを幸せだと感じ 勉強に仕事にがんばってほしい



## 林 廣さん

(明治45年生まれ・97歳)  
昭和12年法学部専門部卒業

ナイショっ!



宴会の場つなぎに、芸の一つも覚えなければと始めた小唄は、娘さんいわく「なかなか渋いすてきな声ですよ」とお褒め付き







8月以降の保健体育審議会に所属する運動部の競技日程です。日程や会場が未定の競技もありますので、ご不明な点は保健体育事務局 (TEL03-5275-8279) にお問い合わせください。



●イベント情報●

## 平成21年度 運動部 競技日程

競技部	日付	大会名	場所
陸上競技部	9月4日～6日	日本学生対校選手権大会	東京都 国立競技場
	9月27日	関東大学女子駅伝対校選手権大会	千葉県 印西市
	10月12日	出雲全日本大学選抜駅伝	島根県 出雲市内
	10月25日	全日本大学女子駅伝対校選手権大会	宮城県 仙台市
	11月1日	全日本大学駅伝対校選手権大会	愛知県・三重県 名古屋～伊勢市
	12月23日	全日本大学女子選抜駅伝競走	茨城県 つくば市
	1月2日～3日	東京箱根間往復大学駅伝競走	東京都・神奈川県 大手町～芦ノ湖
水泳部	8月1日～3日	関東学生選手権大会	東京都 東京辰巳国際水泳場
	9月3日～6日	日本学生選手権大会(水球)	神奈川県 相模原市立総合水泳場
	9月4日～6日	日本学生選手権大会(飛込)	石川県 小松末広屋外プール
	9月5日～6日	日本学生選手権大会(競泳)	熊本県 アクアドームくまもと
	1月9日～10日	東京新春短水路大会2010	東京都 東京辰巳国際水泳場
	1月30日～31日	東京都選手権大会2010	〃 〃
	2月6日～7日	都春季JO予選会	〃 〃
野球部	2月27日～28日	ジャパンオープン2010日本短水路選手権大会	〃 〃
	9月6日～10月27日	東都大学秋季2部リーグ戦	〃 神宮球場
ボート部	8月20日～23日	全日本大学選手権大会	埼玉県 戸田オリンピックコース
	9月10日～13日	全日本選手権大会	〃 〃
	10月16日～18日	全日本新人選手権大会	〃 〃
柔道部	9月6日	東京学生体重別選手権大会	東京都 日本武道館
	9月12日	全日本ジュニア体重別選手権大会	埼玉県 埼玉県立武道館
	10月11日～12日	全日本学生体重別選手権大会	東京都 日本武道館
	11月2日～3日	全日本学生体重別団体優勝大会	兵庫県 尼崎市記念公園総合体育館
	11月14日～15日	講道館杯・全日本体重別選手権大会	千葉県 千葉ポートアリーナ
	11月22日	全日本学生女子選抜体重別団体優勝大会	埼玉県 埼玉県立武道館
剣道部	3月7日	東京都選手権大会	東京都 東京武道館
	9月13日	関東学生優勝大会	〃 日本武道館
	9月19日	関東女子学生優勝大会	〃 東京武道館
	10月25日	全日本学生優勝大会	〃 日本武道館
	11月8日	全日本女子学生優勝大会	愛知県 春日井市総合体育館
	11月21日	関東女子学生新人戦大会	東京都 東京武道館
相撲部	11月22日	関東学生新人戦大会	〃 〃
	8月16日	全日本大学選抜十和田大会	青森県 十和田市相撲場
	9月13日	全日本大学・実業団刈谷大会	愛知県 刈谷市体育館特設相撲場
	9月5日～6日	東日本学生リーグ戦	神奈川県 川崎市富士見相撲場
	9月20日	全国学生個人体重別選手権大会	〃 〃
	10月4日	全日本女子選手権大会	富山県 新湊アイシン軽金属スポーツセンター(射水市)
弓道部	11月7日～8日	全国学生選手権大会	大阪府 堺市大浜公園相撲場
	11月22日	全国大学選抜高知大会	高知県 春野総合運動公園相撲場
	12月6日	全日本選手権大会	東京都 国技館
	8月10日～12日	全日本学生選手権大会	愛知県 日本ガイシスポーツプラザ ガイシホール
	9月20日～10月18日	東京都学生I部リーグ戦	東京都 各大学弓道場
	11月(日は未定)	王座決定戦	三重県 伊勢神宮弓道場
卓球部	11月(日は未定)	女子王座決定戦	〃 〃
	8月10日～12日	全日本大学対抗選手権大会	京都府 京都市体育館
	8月18日～19日	全日本学生選手権大会関東地区予選	東京都 駒沢体育館他
	9月15日～24日	秋季関東学生リーグ戦	〃 国立代々木競技場第二体育館
	10月8日～11日	全日本学生選手権大会	神奈川県 横浜文化体育館
	10月21日～24日	関東学生チームカップ	東京都 東京武道館
馬術部	11月28日～29日	全日本学生選抜選手権大会	愛知県 名古屋市枇杷島スポーツセンター
	1月12日～17日	天皇杯・皇后杯全日本選手権	東京都 東京体育館
	3月10日～14日	東京選手権大会	〃 〃
	8月7日～9日	全日本ジュニア障害飛越競技大会	山梨県 山梨県馬術競技場
	9月5日～6日	東京大会CDI TOKYO2009	東京都 JRA馬事公苑
	9月11日～13日	全日本総合大会	山梨県 山梨県馬術競技場
自転車部	9月25日～27日	関東学生選手権大会	東京都 JRA馬事公苑
	10月3日～4日	10月クロスホストライアル	〃 〃
	10月17日～18日	オリンピック記念大会	〃 〃
	10月28日～11月4日	全日本学生三大大会	〃 〃
	11月14日～15日	関東学生女子大会	〃 〃
	12月5日～6日	全日本学生選手権大会	〃 〃
自転車部	8月16日～18日	全国都道府県対抗大会	秋田県 六郷自転車競技場
	8月27日～30日	全日本学生対校選手権大会	静岡県 日本サイクルスポーツセンター
	9月9日～13日	ツール・ド・北海道2009	北海道 道北～道央
	10月11日	全日本学生新人戦・東日本大会	東日本地区 未定
	10月17日～18日	全日本学生選手権大会トラックレース	山梨県 境川自転車競技場

サークル、ゼミなどが日ごろの活動成果を発表する展示、人気アーティストを招いてのコンサート、著名人による講演会など、イベントが盛りだくさん。皆さんも学部祭に参加して、大いに楽しみ、盛り上げてください。詳しくは、各学部の学生課(電話はアクセス案内参照)にお問い合わせください。

●イベント情報●

## 平成21年度 学部祭 開催日程



実施学部	学部祭名	実施期間
法学部	法桜祭	11月1日(日)～11月3日(火)
文理学部	桜麗祭	10月30日(金)～11月1日(日)
経済学部	三崎祭	11月1日(日)～11月3日(火)
商学部	砧祭	10月31日(土)～11月2日(月)
芸術学部		
所沢キャンパス	芸術祭	11月1日(日)～11月3日(火)
国際関係学部	富桜祭	10月31日(土)～11月2日(月)
理工学部		
駿河台キャンパス	青駿祭	10月30日(金)～11月1日(日)
船橋キャンパス	習志野祭	10月30日(金)～11月1日(日)
生産工学部	桜泉祭	11月1日(日)～11月3日(火)
工学部	北桜祭	10月24日(土)～10月25日(日)
医学部	翠心祭	11月6日(金)～11月8日(日)
歯学部	桜歯祭	10月23日(金)～10月24日(土)
松戸歯学部	松戸祭	10月24日(土)～10月25日(日)
生物資源科学部	藤桜祭	10月24日(土)～10月26日(月)
薬学部	桜葉祭	10月31日(土)～11月1日(日)
通信教育部	集夏祭	8月3日(月)～8月22日(土)

### 最寄り駅からのアクセス

#### ■法学部 03-5275-8505

○JR中央・総武線、都営地下鉄三田線「水道橋」駅下車徒歩3～4分  
○都営地下鉄新宿線・三田線、東京メトロ半蔵門線「神保町」駅下車徒歩5分

#### ■文理学部 03-3329-1151

○京王線、東急世田谷線「下高井戸」駅下車徒歩10分  
○京王線「桜上水」駅下車徒歩10分

#### ■経済学部 03-3219-3347

○JR中央・総武線、都営地下鉄三田線「水道橋」駅下車徒歩3～4分  
○都営地下鉄新宿線・三田線、東京メトロ半蔵門線「神保町」駅下車徒歩5分

#### ■商学部 03-3749-6714

○小田急線「祖師ヶ谷大蔵」駅下車徒歩12分  
○小田急線「成城学園前」駅から東急バスまたは小田急バスで5分「日大商学部前」下車

#### ■芸術学部/所沢キャンパス 04-2993-2241

○西武新宿線「航空公園」駅からバスで15分「エスデシティ中央」下車徒歩3分  
○JR武蔵野線「東所沢」駅からバスで15分「エスデシティ中央」下車徒歩3分

#### ■国際関係学部 055-980-0804

○JR東海道新幹線・東海道本線、伊豆箱根鉄道「三島」駅下車徒歩10分

#### ■理工学部/駿河台キャンパス 03-3259-0609

○JR中央・総武線、東京メトロ丸ノ内線「御茶ノ水」駅下車徒歩3～5分  
○東京メトロ千代田線「新御茶ノ水」駅下車徒歩3分

#### ■理工学部/船橋キャンパス 047-469-5522

○東葉高速線「船橋日大前」駅下車徒歩1分

#### ■生産工学部 047-474-2241

○JR総武線「津田沼」駅北口から京成バスで10分「日大生産工学部」下車  
○京成本線「京成大久保」駅下車徒歩10分

#### ■工学部 024-956-8631

○JR東北新幹線・東北本線「郡山」駅からバスで20分「日本大学」下車  
○JR東北本線「安積永盛」駅下車徒歩15分

#### ■医学部 03-3972-8111

○東武東上線「大井町」駅下車徒歩15分  
○池袋駅西口(バス乗場④)から国際興業バスで20分「日大病院」下車

#### ■歯学部 03-3219-8004

○JR中央・総武線、東京メトロ丸ノ内線「御茶ノ水」駅下車徒歩2～5分  
○東京メトロ千代田線「新御茶ノ水」駅下車徒歩2分

#### ■松戸歯学部 047-360-9213

○JR常磐線、東京メトロ千代田線、新京成線「松戸」駅からバスで15分「日大歯科病院」下車

#### ■生物資源科学部 0466-84-3831

○小田急江ノ島線「六会日大前」駅下車徒歩3分

#### ■薬学部 047-465-7998

○東葉高速線「船橋日大前」駅下車徒歩7分  
○新京成線「北習志野」駅下車徒歩20分、または新京成バスで5分「北習志野駅入口」下車徒歩7分

#### ■通信教育部 03-5275-8921

○JR中央・総武線、都営地下鉄三田線「水道橋」駅下車徒歩3分  
○都営地下鉄新宿線・三田線、東京メトロ半蔵門線「神保町」駅下車徒歩5分



松戸歯学部



工学部



法学部



薬学部



理工学部 駿河台キャンパス



生物資源科学部 第16回桜麗祭



文理学部





競技部	日付	大会名	場所
スケート部	1月 6日～ 9日	日本学生氷上競技選手権大会[スピード]	栃木県 宇都宮市スケートセンター他
	2月11日～14日	全日本ジュニアスピードスケート選手権大会	北海道 明治北海道十勝オーバル
	2月19日～21日	全日本スピードスケート選手権大会	〃
	2月26日～28日	全日本選抜スピードスケート競技会	岩手県 岩手県営スケート場
バスケットボール部	8月30日～10月19日	関東大学女子リーグ戦	東京都 国立代々木競技場第二体育館他
	9月12日～10月25日	関東大学リーグ戦	〃
	11月29日～12月 7日	全日本大学選手権記念大会	〃
バレーボール部	8月 7日～ 9日	全日本ビーチバレー大学男女選手権大会	兵庫県 須磨海岸
	9月 中旬～10月 中旬	秋季関東大学男子リーグ戦	東京都 未定
	〃	秋季関東大学女子2部リーグ戦	〃
レスリング部	11月30日～12月 6日	秩父宮賜杯・秩父宮妃賜杯全日本男女選手権大会	〃
	9月14日～17日	全日本学生選手権大会	〃 駒沢体育館
	9月24日～25日	全日本学生王座決定戦	〃
	10月13日～14日	全日本大学グレコローマン選手権大会	〃
	11月14日～15日	内閣総理大臣杯全日本学生選手権	大阪府 金岡公園体育館
サッカー部	11月24日～26日	東日本学生秋季新人戦	東京都 駒沢体育館
	12月21日～23日	天皇杯全日本選手権	〃 国立代々木競技場第二体育館
	8月30日～10月25日	東京大学リーグ戦	〃 参加各校グラウンド
ヨット部	11月 中旬～11月 下旬	インデペンデンスリーグ2009 決勝	未定
	11月(日は未定)	関東大学大会	〃
	12月 6日～23日	東京都大学連盟新人大会	東京都 参加各校グラウンド
	8月 1日～ 2日	関東470選手権大会	神奈川県 江ノ島ヨットハーバー
	〃	東日本スナイプ選手権大会	〃
	8月22日～30日	関東学生個人選手権大会・470級	〃
	〃	関東学生女子秋季選手権大会	〃
	〃	関東学生個人選手権大会・スナイプ級	〃
	〃	関東学生女子秋季選手権大会・470級	〃
	9月 4日～ 6日	全日本学生個人選手権大会	愛知県 海陽ヨットハーバー
アメリカンフットボール部	9月11日～13日	全日本女子選手権大会	〃
	10月10日～12日	関東学生秋季選手権大会	神奈川県 三浦郡葉山町森戸海岸沖
	10月16日～18日	JASFオリンピックウィーク	〃
	10月31日～11月 3日	全日本学生選手権大会	岡山県 〃
	9月 5日	関東大学リーグ戦 日本大学 vs 国士舘大学	東京都 アミノバイタルフィールド
フェンシング部	9月13日	〃 日本大学 vs 立教大学	〃
	9月26日	〃 日本大学 vs 帝京大学	神奈川県 川崎球場
	10月 4日	〃 日本大学 vs 関東学院大学	東京都 アミノバイタルフィールド
	10月17日	〃 日本大学 vs 中央大学	〃
	10月25日	〃 日本大学 vs 専修大学	〃
	11月 7日	〃 日本大学 vs 早稲田大学	〃
	11月15日	〃 準決勝	〃 駒沢陸上競技場
ゴルフ部	11月29日	〃 決勝	〃 味の素スタジアム
	9月20日～21日	牧杯ジュニア選手権大会	京都府 大山崎町体育館
	9月29日～30日	関東学生新人戦	東京都 駒沢公園屋内球技場
	10月 8日～15日	関東学生選手権大会	〃
	11月 8日～12日	全日本大学対抗選手権大会	〃
	〃	全日本学生選手権大会	〃
	1月 8日～12日	JOCジュニアオリンピックカップ大会	〃 駒沢体育館
	8月 4日～ 7日	関東女子学生選手権	埼玉県 狭山ゴルフクラブ
	8月 4日～ 8日	関東学生選手権	千葉県 鷹之台カンツリー倶楽部
	8月25日～28日	日本学生選手権競技	茨城県 江戸崎カントリー倶楽部
ハンドボール部	8月26日～28日	日本女子学生選手権競技	〃
	9月 8日～10日	TOPY CUP日米大学対抗選手権	福島県 榎倉田舎倶楽部
	9月15日～16日	関東大学秋季女子A・B・Cブロックリーグ戦	栃木県 サザンヤードカントリークラブ
	9月21日～22日	関東大学秋季A・B・Cブロックリーグ戦	茨城県 茨城ロイヤルカントリー倶楽部
	10月11日～12日	文部科学大臣杯争奪・日本学生王座決定戦	未定 未定
	10月27日～28日	朝日杯争奪・日本学生選手権	千葉県 千葉カントリークラブ 梅郷コース
	〃	朝日杯争奪・日本女子学生選手権	〃
	10月29日～30日	信夫杯争奪・日本大学対抗戦	〃
	〃	信夫杯争奪・日本女子大学対抗戦	〃
	バドミントン部	8月30日～ 9月 7日	東日本学生選手権大会
9月12日～21日		関東学生秋季リーグ戦	神奈川県 日本体育大学健志大キャンパス他
10月16日～22日		秩父宮・秩父宮妃杯争奪全日本学生選手権大会	滋賀県 滋賀県立体育館他
応援リーダー部	8月29日～ 9月29日	関東学生秋季リーグ戦	東京都 駒沢屋内球技場他
	11月 7日～11日	全日本学生選手権大会	石川県 いしかわ総合スポーツセンター
応援リーダー部	8月28日～30日	ジャパンカップ2009 日本選手権大会	東京都 国立代々木競技場第二体育館
	12月12日～13日	全日本学生選手権大会	〃



競技部	日付	大会名	場所
自転車部	10月25日	ジャパンカップサイクルロードレース	栃木県 宇都宮市森林公園周回コース
	11月 3日	全日本チーム対抗大会	静岡県 日本サイクルスポーツセンター
	11月 7日～ 8日	ツール・ド・おきなわ2009	沖縄県 名護市特設コース
	12月 6日	全日本学生RRS第7戦・東京昭和記念公園クリテリウムラウンド	東京都 東京都立川市・昭和記念公園
テニス部	1月10日	全日本学生RRS第9戦・葛浦町クリテリウム1月ラウンド	埼玉県 葛浦町特設サーキット
	2月(日は未定)	全日本学生RRS最終戦・明治神宮外苑学生クリテリウム大会	東京都 明治神宮外苑
	8月 5日～15日	全日本選手権大会	〃
	8月19日～ 9月 6日	夏季関東学生選手権	〃 武蔵野ドームテニスクラブ
	9月10日～24日	関東大学リーグ	〃
	10月28日～11月 1日	全日本大学王座決定試合	愛知県 名古屋グリーンテニスクラブ
	12月 1日～ 5日	全日本室内選手権大会	京都府 長岡京市西山公園体育館
	2月17日～ 3月 7日	関東学生新進選手権大会	東京都 各大学テニスコート、有明テニスの森公園
	8月 7日～ 8日	全日本大学対抗選手権大会	岩手県 岩手県北上市他
	8月 9日～11日	全日本学生選手権大会	〃
ソフトテニス部	8月12日	全日本シングルス選手権大会	〃
	9月 5日～ 6日	JOC杯・全日本ジュニア選手権大会	広島県 広島市中央庭球場
	9月12日～13日	関東大学対抗戦大会	東京都 中央大学テニスコート他
	10月 3日～ 4日	東都秋季リーグ戦	〃 中央大学テニスコート
	10月10日～11日	関東学生新進大会	〃 中央大学テニスコート他
	10月16日～18日	天皇賜杯全日本総合選手権大会	高知県 高知市他
	10月24日～25日	関東学生秋季リーグ戦	千葉県 白子町サニーコート
	11月14日～15日	東都シングルス選手権大会	東京都 中央大学テニスコート他
	11月15日	関東学生選抜インドア大会	神奈川県 横浜国際プール
	11月21日～24日	ジュニアジャパンカップ	宮崎県 宮崎市
空手部	12月15日	全日本学生選抜インドア選手権大会	東京都 東京体育館
	8月22日～23日	和道全国大会	〃 東京武道館
	10月11日	関東学生体重別選手権大会	〃 日本武道館
	11月 1日	関東大学選手権大会	〃
自動車部	11月23日	全日本大学選手権大会	大阪府 大阪市中央体育館
	8月 8日～ 9日	全日本学生ダートトライアル選手権大会	広島県 テクニック・ステージ・タカタ
	8月29日～30日	全日本学生ジムカーナ選手権大会	三重県 鈴鹿サーキット国際南コース
	8月31日	全日本学生対抗チームマイナス6%エコドライブコンテスト	〃 鈴鹿サーキット国際レーシングコース
	10月11日～12日	関東学生軽6時間耐久レース	長野県 スポーツランド信州
準硬式野球部	11月29日	全日本学生選手権大会	大阪府 近鉄自動車学校
	8月26日～31日	全日本選手権大会	兵庫県 近鉄自動車学校他
	9月 1日	秋季リーグ戦大会	東京都 上柚木球場、八王子市民球場
体操部	11月 1日	関東地区大学・社会人王座決定戦	未定 未定
	8月20日～22日	全日本学生選手権大会	群馬県 ぐんまアリーナ(群馬県総合スポーツセンター)
	11月 5日～ 7日	関東学生新人選手権大会	茨城県 笠松運動公園総合体育館
	11月 5日～ 6日	関東学生交流大会	〃
	11月20日～22日	全日本選手権大会	東京都 国立代々木競技場第一体育館
	8月15日～16日	国体九州ブロック 兼 九州選手権大会	長崎県 小江原撃場
	8月22日～23日	国体関東ブロック 兼 全関東選手権大会	千葉県 千葉県営射撃場
射撃部	9月10日～13日	秋季関東学生選手権大会	埼玉県 長瀬総合射撃場
	9月12日～13日	JOCジュニアオリンピックカップ大会 兼 ISSFジュニア選手権大会	〃 国際学院高等学校射撃場
	10月31日～11月 3日	全日本学生選手権大会	大阪府 能勢町ライフル射撃場
	〃	全日本女子学生選手権大会	〃
	11月 1日	西日本秋季SB・AR大会	広島県 つつがライフル射撃場
	11月12日～15日	関東学生新人大会 兼 関東学生AR・SBR大会	埼玉県 朝霞オリンピック射撃場
	11月13日～15日	全日本選手権大会	大阪府 能勢町ライフル射撃場
	11月21日～23日	全日本学生クラブ対抗選抜大会	静岡県 スポーツバール高根の里
	3月13日～14日	全日本選手権大会	宮城県 宮城県ライフル射撃場
	9月12日～13日	東日本学生個人選手権大会	神奈川県 日本大学生物資源科学部体育館
重量挙げ部	10月10日～11日	全日本学生新人選手権大会	〃 横浜市磯子スポーツセンター
	12月25日～27日	全日本大学対抗選手権大会	〃
ラグビー部	9月13日～11月29日	関東大学リーグ戦	東京都 江戸川区陸上競技場他
ボクシング部	11月14日～18日	全日本選手権	大分県 津久見高校体育館
	10月10日～12日	東京フィギュア選手権大会	東京都 ダイードリンコアイスアリーナ
スケート部	10月17日～18日	東日本学生フィギュアスケート選手権大会	〃
	10月23日～25日	全日本距離別スピードスケート選手権大会	長野県 エムウェーブ
	11月14日～15日	オール関東フィギュアスケート選手権大会	東京都 ダイードリンコアイスアリーナ
	11月27日～29日	真駒内選抜スピードスケート競技会	北海道 真駒内野外競技場
	12月 4日～ 6日	松本浅間選抜スピードスケート競技会	長野県 浅間温泉国際スケートセンター
	12月10日～11日	全日本学生スピードスケート選手権大会	群馬県 群馬県総合スポーツセンター伊香保リンク
	12月25日～27日	全日本選手権大会[フィギュア]	長野県 ビッグハット
1月 6日～ 9日	日本学生氷上競技選手権大会[フィギュア]	栃木県 宇都宮市スケートセンター	





## 『日本大学桜門会館』地鎮祭——平成22年6月完成目指し

日本大学校友会の活動拠点となる「日本大学桜門会館」の地鎮祭が6月29日(月)、東京・市谷の旧日本大学会館別館跡地で、酒井健夫日本大学総長、田中英壽日本大学理事長・校友会会長をはじめ日本大学役員・教職員、校友会役員、建設関係者ら56人が参加して行われました。

神事は、午前11時から、三崎稲荷神社の神職により執り行われ、修祓、祝詞奏上などを行った後、鍬入之儀となりました。鍬入は、田中理事長や中庭敏日本大学常務理事らが「えい、えい、えい！」という掛け声と共に、その後、神酒拝戴など行い、神事は厳かなうちに終了しました。

神事後、建築主として田中理事長・校友会会長が参加者に、「校友会館の建設は、校友会の長年の希望でした。それが、自立・自助の理念を掲げる新校友会となって8年目に実現することになりました。これは、全国の校友の方々のご協力あつての賜物です。また、日本大学と校友会が一体となって協力し合ったからこそ、このような大きな事業も実現したのです。これからも校友の方々のお力を借りながら、日本大学と一致

団結することで、より充実した校友会組織をつくり上げてまいります」と、あいさつしました。

桜門会館は、総工費約8億3000万円で、JR・地下鉄市ヶ谷駅から徒歩1分の千代田区五番町2番地6に建設され、敷地面積796.29m<sup>2</sup>、延床面積1,735.60m<sup>2</sup>、鉄筋コンクリート造4階建てで、館内には大会議室やイベントホールも備える予定です。建設工事は、今年7月に着工し、来年6月に完成する予定です。



## 書籍紹介



### B型のルール

著者/内川あ也

(日本風水クラブ代表・開運アドバイザー/平成20年大学院総合社会情報研究科博士前期課程人間科学専攻修了)

発売元/中経出版 価格/560円(税込)

「自己チュー」「気まぐれ」「変わり者」……何かとお騒がせて、友人関係においてもどこかネガティブな印象をもたれがちだった「B型の人」。でも、よく考えてみれば、個性が際立っていて目立つ存在だからこそ、そう思ってしまうだけで、実は誰も心引かれているのでは？ 仕事や人間関係において、キーポイントになる「B型の人」の思考や行動の傾向を知り、付き合い方を身に付けるためのルールブックが本書。B型の人自身を知るために、他の血液型の人とのコミュニケーションツールとしてご一読を。

## Book Review

### 右脳がぐんぐん伸びるひらめきお絵かきドリル

著者/須永かおり

(リトルアートクラブ主宰/平成13年経済学部産業経営学科卒業)

発売元/総合法令出版 価格/893円(税込)

子どもたちが話すこと、そしてその行動にはすべて意味がある。本人も気が付かない心の叫びが、言動に隠れていることもある。楽しくお絵描きしながら、そんな子どもの本当の姿を見つけてあげられるのが本書。この本の各ドリルには、子どもが気付かぬうちに本心を表現してしまう仕掛けがいっぱい。お絵描きで子どもの能力を引き出し、「ひらめき力」を鍛えながらコミュニケーションすることで、感情表現や創造性の豊かな子どもを育てることに役立つ一冊。大人も一緒に楽しみながら、右脳を活発に働かせてみたい。



平成21年度の校友会役員総会が7月13日(月)、東京ドームホテル(東京都文京区)で開催されました。総会では、平成20年度の準会員への診療費助成や奨学金、平成21年度校友子女入試の結果、平成20年度の各種運営委員会の活動などが報告された後、平成20年度収支決算、平成21年度事業計画と収支予算、会則の一部改正などが審議されて、すべて承認されました。

引き続き、支部・部会への補助費交付式と平成21年度校友子女入試特別優待生への賞状授与式が行われました。授与式には、選ばれた学生9人のうち、鈴木つかささん(芸術学部放送学科)、小池亮さん(歯学部歯学科)、阿部玄太さん(生物資源科学部国際地域開発学科)の3人が出席し、田中英壽会長から賞状を授与されました。

### ●平成21年度事業計画について

#### 1 各種運営委員会・各支部総会開催計画

#### 2 正会員事業計画

##### ①校友会館設立のための資金積立

(会則第3条第1号「校友会館設置事業」)

##### ②校友子女入試の推進

(会則第3条第5号「日本大学学生等の募集支援事業」)

##### ③全国校友大会の開催

(会則第3条第3号「会員の福利厚生に関する事業」)

##### ④スポーツの振興と推進

(会則第3条第15号「体育活動助成事業」)

##### ⑤その他必要とする事業

(会則第3条第18号「その他の必要事業」)

#### 3 準会員事業計画

##### ①スポーツ優勝者表彰

(会則第3条第15号「体育活動助成事業」)

##### ②スポーツに対する奨励金交付

(会則第3条第15号「体育活動助成事業」)

##### ③全学文化事業(NU祭)支援

(会則第3条第15号「文化活動助成事業」)

##### ④診療費助成

(会則第3条第17号「準会員に対する診療費助成事業」)

##### ⑤校友会独自の奨学金

(会則第3条第14号「準会員に対する奨学事業」)

##### ⑥校友子女入試の充実に伴う特別優待生制度の拡大

(会則第3条第14号「準会員に対する奨学事業」)

##### ⑦その他必要とする事業

(会則第3条第18号「その他の必要事業」)

以上

### ●校友会新規加盟団体について(平成20年度役員総会以降)

佐藤工業桜門会

行政書士桜門会

### ●校友会活動資金としての寄付報告

故四本貴資様(昭和25年工学部卒)ご遺族、故深沢進様(昭和26年芸術学部卒)ご遺族、故西田茂一様(昭和28年短期大学部卒)ご遺族、岩崎延司様(昭和36年通信教育部卒)、永井絃様(昭和40年理工学部卒)、荒木健一様(昭和47年法学部卒)、故小倉一幸様(昭和49年経済学部卒)ご遺族、鈴木真喜子様(昭和63年国際関係学部卒)から、校友会活動資金として役立ててほしいとの趣旨で寄付がありました。謹んでお礼申し上げます。(平成21年1月~6月)

## 特別優待生に聞く 喜びと校友への感謝の声



### 鈴木つかささん

芸術学部放送学科1年

小学校のとき、父に芸術学部の文化祭に連れていってもらって以来、芸術学部で勉強することが夢でした。今回は入学できただけでなく、校友会の特別優待生に選ばれたことを光栄に思っています。両親も大喜びで、二重三重の喜びになりました。今度は「テレビの制作企画の仕事」に就くという夢に向かって、がんばって充実した大学生活を送りたいと思います。



### 小池亮さん

歯学部歯学科1年

大学に入学するまで、ずいぶんと親に負担をかけたので、申し訳ないと思っていました。しかし、今回、特別優待生に選ばれたことで、ちょっとだけ気持ちが楽になり、うれしく思っています。入学後は、ラグビー部に入部し、授業に、部活動にと充実した毎日です。伝統ある学部で、友人との付き合いを大切に、文武両道で大学生活を過ごしていく決意です。



### 阿部玄太さん

生物資源科学部国際地域開発学科1年

親元を離れての新しい生活に戸惑うこともありますが、藤沢のキャンパスは環境も良く、快適な学生生活です。今回、特別優待生に選ばれたことは、親も喜んでくれ、ほんの少しだけ親孝行ができたように思います。夢は青年海外協力隊として途上国の支援を行うこと。そのために国内外に目を向け、身近なところから見聞を広めていこうにしたいと思います。



インフォメーション

- ◎本誌への情報提供、ご意見、お問い合わせは…  
この会報は、会員相互のコミュニケーションを深めていただくことを目的に、1人でも多くの校友や在学生の紹介記事を載せています。お店やお宿を経営している方、ユニークな先輩や後輩をご存じの方、自分を紹介してほしいなど、自薦他薦を問いませんので、事務局までお知らせください。
- ◎住所・勤務先が変わったら…  
住所、勤務先等に変更がございましたら、必ず事務局までお知らせください。  
電話、FAX、メールいずれの方法でも結構です。
- ◎会員証を紛失されたら…  
会員証を紛失された際は事務局までご連絡ください。再発行いたします。
- ◎新規会員を紹介したい…  
新規に会員希望の方をご存じの方は、事務局までご連絡ください。資料を送付いたします。

- 1 封筒、ハガキで  
〒102-8275  
東京都千代田区九段南4-8-24  
日本大学校友会本部事務局校友課「桜縁」係
- 2 電話、ファクシミリで  
TEL 03-5275-9300  
FAX 03-5275-8330
- 3 電子メールで  
E-mail : koyu@nihon-u.ac.jp

訂正

第14号2ページの酒井健夫総長の学歴に誤りがありました。「昭和41年農獣医学部農獣医学科卒業」は「昭和41年農獣医学部獣医学科卒業」の誤りでした。訂正してお詫びします。

桜縁 No.15 2009.7発行

編集・発行 日本大学校友会  
〒102-8275 東京都千代田区九段南4-8-24  
TEL 03-5275-9300 FAX 03-5275-8330  
広報委員会

- 委員長：新井 謙寿  
副委員長：綾部 東洋子  
委員：石 光 井上 閑陽雄  
内田 章 小橋 恵津  
中村 克夫 萩原 正芳  
茂木 完仁 鈴木 孝司  
鈴木 彰一 中島 正博  
我妻 治 齊藤 正道  
堀 敏一

編集後記

広報委員会委員長 新井 謙寿

昨年度から編集委員会では「桜縁」のリニューアルについて、何度も協議をしてきました。リニューアルの主なポイントは、準会員から正会員まで、つまり18歳から90歳を超える卒業生まで広く楽しめる内容とすること、読みやすくすること、写真などを充実させることでした。委員からはいろいろなアイデアが出され、新企画「ふるさと礼讃」「わが町の先生」「趣味悠々」「お達者通信」はその一部です。判型もA4サイズと大きくし、文字も縦書きに改めました。

今後も読者のお声を大切に、皆さまが楽しめる「桜縁」にしていきたいと思っております。ぜひ、新「桜縁」のご感想やご希望などを巻末のアンケートでお知らせください。

平成21年度日本大学全国校友大会  
開催について

全国の校友の皆さまにご参加いただき、毎年盛大に催されている全国校友大会が、今年も11月16日(月)に開催されることが決まりました。この大会は、全国の校友と日本大学の役員・教職員が年に一度、一堂に会し交流することで“絆”を深め、同窓としての意識を確かめ合い、日本大学のさらなる発展に寄与することを目的としています。昨年は全国から、これまでで最も多い1,000人を超える校友の皆さまにご参加いただきました。今年はさらに多くの校友の方々にお会いできることを願っております。



平成20年度日本大学全国校友大会

なお、正会員の皆さまには、ご案内を郵便でお届けいたします(10月上旬予定)。また、校友会のホームページでも告知いたします。

開催日時	平成21年11月16日(月) 午後6時～
会場	東京ドームホテル 天空(地下1階) (東京都文京区後楽1-3-61)
会費	10,000円
申し込み方法	郵便振替による会費振り込みでの申し込み。 詳細は、校友会事務局からの案内をご覧ください。
問い合わせ先	日本大学全国校友大会事務局 (校友会本部事務局庶務課) TEL 03-5275-8143 FAX 03-5275-8330
ホームページ	<a href="http://www.nihon-u.ac.jp/alumni/">http://www.nihon-u.ac.jp/alumni/</a>

桜縁No.15 プレゼントのお知らせ

巻末のアンケートにお答え戴いた方の中から抽選でプレゼントを差し上げます。ご希望の商品番号をアンケート用紙にご記入の上、ふるってご応募ください。なお、当選の発表は商品の発送をもってかえさせていただきます。

- 01 小説『坊っちゃん』  
夏目漱石著(岩波文庫) 抽選で2名さま
- 02 小説『しろばんば』  
井上靖著(新潮文庫) 抽選で2名さま
- 03 小説『不如帰』  
徳富蘆花著(岩波文庫) 抽選で2名さま
- 04 小説『夫婦善哉 完全版』  
織田作之助著(松雄堂出版) 抽選で2名さま
- 05 丸八やたら漬本舗  
やたら漬詰め合わせ「羽黒山」 抽選で1名さま
- 06 丸八やたら漬本舗  
やたら漬詰め合わせ「出羽の国 やまがた」 抽選で3名さま

